

勤労青年の生活意識について*

—— 生活条件との関連を中心に ——

後 藤 宗 理 内 田 良 男

I 問 題

青年が、社会についての見方や考え方を形成していく過程や、現在の青年たちが日常生活についてどのように感じているのかといった問題は、ひろく青年研究にたずさわる者の关心をひくところである。ことに青年期が人生観の確立の時期であることを考えると、青年がいだいている悩みや社会に対する態度を知ること、また、彼らのおかれた状況について知ることは、青年を理解する上で不可欠のことである。

ところで、青年期のはじまりをいつからとし、おわりをいつにするかという問題については、さまざまな考え方があるが、最近では、12、18歳から30歳くらいまでを青年期と考える人もいる。この区切り方を参考にしながら、現代の青年がおかれた状況について検討してみよう。彼らは、15歳までは義務教育をうけているが、15歳から22歳の間は、教育機関に在籍する青年のグループと職業についている青年のグループとに大別される。この学生と勤労青年という2つのグループは、その生活条件のちがいから、社会に対する見方や彼らのかかえている悩みあるいは生活意識に関して、かなりの差異を示すことが予想される。

学生については、資料の得やすさなどから、これまでにも多くの研究者によってさまざまな検討がなされている。一方、勤労青年については、組織的に資料を得ることが困難であることなどの理由で、十分な検討はなされていない。とくに、生活意識などは青年自身の生活条件に規定されるところが大きいと思われるが、心理学的な研究では、生活条件との関連についての研究はあまりみられないのが現状である。

われわれは、たまたま、1地方都市に在住する青年を対象とする社会調査に参加する機会を得た。そこで得られたデータは、15歳から24歳までのうちに勤労青年の生活意識と生活条件についての実態を明らかにしようとした

* 本研究の資料分析のための計算は、名古屋大学大型計算機センター F A C O M 230-75 によった。

ものである。本報告では、その調査の一部のデータを利用して生活意識に関する各項目が、相互にどのような関連をもっているのかを明らかにするとともに、生活意識と生活条件との関連を検討することを、第1の目的としている。

ところで、青年期になると、児童期までとは異なり、青年たちは、孤独を求める傾向が強くなるといわれている。また同時に、児童期までは、両親をはじめとする大人に依存する傾向がおもな特徴であるのに対して、青年期では、同年代の仲間を求めて行動するようになるということも知られている。このような事情を背景として、教育委員会などの社会教育機関では、仲間づくりのためのさまざまな事業を行なっている。しかも、その内容が多様であるばかりでなく、その事業への参加者もさまざまな青年を含んでいる。したがって、教育委員会行事に対する期待や、参加を希望しない理由を明らかにすれば、単に、教育委員会が今後の事業計画を立案する際に役立つというだけでなく、青年の仲間づくりを理解する上で参考になるものと考える。本報告の第2の目的は、このような教育委員会行事への、参加経験や参加希望のありなしを規定する諸要因を明らかにすることにある。

II 方 法

1. 分析に用いられたデータについて

分析に用いられたデータは、1973年10月に愛知県一宮市に在住の青年を対象として実施された実態調査（一宮市教育委員会、1975）のデータにもとづいている。**調査対象は、1973年7月現在同市内に在住している満15歳以上、同24歳未満の全青年男女である。

実際の調査の対象は、住民台帳にもとづいて作成された青年台帳から、層別2段抽出法によって選ばれた主対象1546名と規模の大きい寮に居住する青年から同様に抽出された副対象317名である。今回の報告では、主対

**この青年実態調査は、一宮市教育委員会が東海社会教育研究会に委託して行なわれた。資料の利用を許可していただいた東海社会教育研究会（当時の代表者 小畠勉 名古屋大学名誉教授）に感謝します。

勤労青年の生活意識について

象についてのみ述べることにする。なお、主対象に対する調査は面接法によっている。

今回、分析の対象となったサンプルは、最終有効サンプル 1388 名のうち、有職者 711 名（進学就職者を含む）であり、属性別にみた内訳は、表 1 に示した通りである。

表 1 被調査者の属性別内訳

項目		人数 (%)
勤労青年全体		711(100.0)
性別	男子	412(57.9)
	女子	299(42.1)
年齢	15-19才	201(28.3)
	20-21才	193(27.1)
	22-24才	317(44.6)
居住形態	自宅	533(75.0)
	その他	178(25.0)
婚姻	既婚	89(12.5)
	未婚	622(87.5)
出生地	一宮	395(55.6)
	東海四県	126(17.7)
	九州	113(15.9)
	それ以外	77(10.8)

2. 調査項目

調査は末尾に添付した調査票にもとづいて行なわれた。主な調査項目群は以下の 8 群である。(2)(3)(4)については、有職者だけが回答した。

- (1) 性別、年齢、結婚、学歴、居住形態、出生地などの基本データ
- (2) 職業の種類、就業形態、勤務の場所、所属する産業の種別など、職業生活に関する基礎的なデータ
- (3) 職業生活の実態、労働条件、ならびにそれらについての満足度
- (4) 余暇時間の実態ならびにその利用状況
- (5) 生活態度ならびに将来の生活設計
- (6) 生活環境に対する評価
- (7) 青年集団への参加状況および期待
- (8) 一宮市社会教育課が設置・実施する教育機関・教育機会への参加状況ならびにそれへの期待と評価

III 結 果

われわれは、本研究での分析を通して、勤労青年の意識構造はどのような様相であるのか、また、その意識構造は、彼らの生活条件とどのような関連をもっているのかを明らかにしようとした。そのために、まず第 1 に、生活の現状についてなされた、さまざまな側面からの評

価の相互関係および日常生活の行動面を示す項目相互の関連をみようとした。第 2 に、日常生活に関する評価および日常の行動を中心に、勤労青年の意識構造を明らかにした。第 3 に、現代の青年を理解する 1 つの手がかりを得るために、教育委員会行事への参加希望および参加意欲を規定する諸要因について検討を加えた。

1. 生活意識項目の相互関係について

生活意識は、日常生活の状況についての評価だけにもとづいているのではなく、具体的な行動とも深いかかわりをもっている。したがって、生活意識の構造を検討する場合には、この両者を考慮に入れた検討がなされるべきであると考える。本節では、まずそのような検討の準備段階として、日常生活についての評価の項目群と、具体的な行動に関連について検討することにする。

(1) 日常生活の評価について

ここでとり上げた項目は、職業生活についての評価をたずねる 5 項目（仕事の適性、職場の人間関係、収入、将来の見通し、職業生活全体の評価）、生活環境についての評価をたずねる 5 項目（人の気持のあたたかさ、自然環境、日常生活の便利さ、文化的環境、街への愛着）、日常生活についての満足度の計 11 項目である。

いずれの場合にも、最も肯定的な選択肢に対して 1 点を、肯定的な選択肢に 2 点を、否定的な選択肢に 4 点を、最も否定的な選択肢に 5 点を与え、「どちらでもない」あるいは「無答」の者に 3 点を与えて得点化した。

職業生活、生活環境、日常生活のそれぞれの項目について平均値と標準偏差を示したのが、附表 1 と附表 2 である。職業生活に関しては、職場の人間関係についての評価が最もよく、収入についての評価が最も悪い。一方生活環境については、生活の便利さと街への愛着についての評価がよく、人の気持や文化的環境についての評価が悪いことがわかる。

つぎに、このような生活についての評価が個人の生活条件や生活目標によってどのように異なっているかをみることにする。ここでとり上げる生活条件は、性別、職業、月収、小づかいの額である。また、生活目標との関連もみることにする。なお、職業および生活目標については、度数分布表にもとづいていくつかのカラゴリーを合併し、新しいカテゴリーで分析されている。

最初に、附表 1 の結果にもとづきながら、職業生活の評価について特徴的なことがらをみることにする。性別によるちがいは、収入についての評価が、男子の方が女子よりもやや悪いこと以外みられない。一方、職業別にみると、「その他」に含まれる職業の人が、他の職業の人とはやや異なる傾向にあることがわかる。ここで、「そ

の他」の職業としてまとめられたものは、専門職、経営・管理職、職人などであり、ほかの職業に比べて仕事の適性、将来性、職業生活全体の評価の3つの項目について肯定的な評価をしている。一方、月収別にみると、6万円前後を境にして、職業生活に関するいずれの項目についても評価が分かれていることがわかる。つまり、月収が6万円以下の場合には全般に評価が悪く、とくに仕事の将来性は、5万円以下の人の場合には、5万円以上の人々に比べて悪い。この結果は、収入が少ないほど現在将来とも労働環境や仕事の見通しが悪いことを示唆している。小づかいの額と評価との関連は明らかではない。

また、生活目標ごとにみてみると、「趣味にあったくらし」をしたい人に、職業生活全体についての評価が悪いことがわかる。

つぎに、附表2にもとづいて、生活環境と日常生活満足度についてみることにする。検定の結果からも明らかなように、有意な結果は少ない。男女差がみられるのは、「街への愛着」のみであり、男性の評価の方がよい。職業別にみると、「文化的環境」についての評価が「事務」および「その他」の職業の人の場合に悪いこと、しかし、日常生活全体についてみると、「その他」の職業の人は一番評価が高いことがわかる。これは、生活条件がよくなるにつれて、文化への要求が高まっていくことを示唆するものといえる。一方、収入や小づかいの額と生活環境についての評価との関連は明確ではない。しかし、小づかいの額が多いほど日常生活全体についての評価が悪くなるというのではなく、何を意味しているのだろうか。生活目標別にみると、「その他」の人は、それ以外の何らかの生活目標をもった人よりも、生活満足度が低いことも示されている。これらのことから、単に項目ごとに生活条件との関連を見るだけでは、十分に理解できない部分が残されているといえる。

これまでの結果を参考にして、上でとり上げた11項目について相互の関連をみるために、因子分析を行なった。その結果、次の2つの因子、すなわち、職業生活を含めた日常生活に関する満足度因子と、生活環境に関する満足度因子が得られた。つぎに、この因子分析の結果にもとづいて項目得点を合成し、新たに日常生活総合満足度と生活環境総合満足度を求めた。職業生活に関する5項目と日常生活の満足度の合計6項目によって、日常生活総合満足度を算出したところ、 α -係数は0.719であった。また、生活環境に関する5項目から生活環境総合満足度を算出したところ、 α -係数は0.589であった。また、2つの総合満足度間の相関は $r = 0.338$ ($P < .001$) であった。

上記の2つの満足度が生活条件によってどのように異

なるかの検討も行なった。附表3のように、日常生活満足度は、職業や月収によって異なる傾向がみられたのに対して、生活環境満足度については、明確なちがいがみられなかった。日常生活については、「その他」の職業の方方が、「作業・運輸」および「事務」の人よりも満足度が高く、また月収でみると、収入の多い人の方が満足度が高いことがわかる。

以上、まとめてみると、勤労青年の場合、日常生活についての評価が職業生活を主体とした観点と、生活環境を主体とした観点との2側面からなされており、日常生活総合満足度は、おもに職業生活についての評価と関連をもっているといえよう。

(2) 日常生活の行動的側面について

ここでは、余暇行動についての6項目（休息、ショッピング、社交、身のまわりの整理、読書・勉強、スポーツ・趣味活動）、小づかいの使いみちについての5項目（おしゃれ用品、飲食・嗜好品、スポーツ・趣味、書籍・授業料、娯楽）、生活目標、教育委員会行事への参加希望の合計13項目をとり上げた。

このうち、余暇行動、小づかいの使いみちについては、もともと多肢選択のかたちで回答されたものを、独立に回答したものとみなして再整理した。また、生活目標については、(1)と同じように、新カテゴリーを用いている。

それぞれの項目群間の関連をみたのが附表4～附表9である。項目相互の関連をしらべるために、 χ^2 -検定を行ない、その結果を表中に記載した。

まず、余暇行動の内容と他の項目との関連をみることにする（附表4、附表5）。度数分布と χ^2 -検定の結果をまとめてみると、次のようなである。

①余暇行動の中では、「休息・くつろぎ」を行なう青年が最も多く、「読書・勉強」が最も少ない。一方、小づかいの使いみちの中では、「飲食・嗜好品」を使う青年が最も多く、「娯楽」が最も少ない（附表4）。

②項目間で関連があるものをみると、「ぶらつき・ショッピング」をすることは、「おしゃれ用品」「飲食・嗜好品」「書籍・授業料」に使うこと、および「娯楽」に使わないことと関連があり、おもに女性に関係しているといえる。同様のことが「身のまわりの整理」をすることについてもいえる（附表4）。

③「読書・勉強」をすることは、「書籍・授業料」に小づかいを使うことと関連があり、「娯楽」に使わないこととも関連している。これは、生活態度が反映したものと考えることができる（附表4）。

④「スポーツ・趣味活動」をすることは、「飲食・嗜好品」「スポーツ・趣味」「書籍・授業料」に使うことと関連があり、「娯楽」に使わないことと関連がある（附

勤労青年の生活意識について

表4)。

⑤余暇行動の内容と教育委員会行事への参加希望との関連をみると、「読書・勉強」「スポーツ・趣味活動」をすることと、参加希望とは関連があり、余暇行動の内容からみる限りでも、参加希望者が行事に求めているものが、教養的な内容のものあるいは趣味的な内容のものであることがうかがえる(附表5)。

つぎに、小づかいの使いみちの内容と、教育委員会行事への参加希望との関連をみると(附表6)。とくに、「書籍・授業料」に使うことと「参加を希望すること」との間に明白な関連がみられる。これは、上述の、余暇行動の内容と参加希望との関連についてみた場合と同様の傾向である。

最後に、生活目標と余暇行動、小づかいの使いみちの内容、教育委員会行事への参加希望とのそれぞれの関連についてみることにする(附表7～附表9)。

附表7から明らかなように、それぞれの生活目標の選択者の分布は、カテゴリーを合併した結果、ほぼ同じようになっているが、「世の中は金……」を選択した人がやや少ない。

余暇行動の内容との関連をみてみると(附表7)，有意な連関が見られたのは「社交・つきあい」「身のまわりの整理」「読書・勉強」との間においてのみであった。とくに目立った傾向としては、「趣味にあったくらし」を生活目標としている人が、上の3つの余暇行動を比較的よく行なっていること、それとは対照的に、「世の中は金……」を生活目標としている人は「社交・つきあい」をすることが多い反面、「身のまわりの整理」「読書・勉強」をすることが少ないと、また、「その他」の生活目標の人が、「読書・勉強」をすることが少ないとあげられる。

一方、小づかいの使いみちの内容との関連をみると、「書籍・授業料」と生活目標との間に有意な関連がみられた(附表8)。すなわち、「majime ni, 社会のために」あるいは「趣味にあったくらし」を生活目標とする人は、「書籍・授業料」に小づかいを使うことが多く、「世の中は金……」という人は、「書籍・授業料」に小づかいを使うことが少ない。

このような状況は、教育委員会行事への参加希望との関連をしらべた場合にもみられる(附表9)。すなわち、「参加したい」人の割合を生活目標別にみると、「majime ni, 社会のために」という人に参加希望者が多く、「世の中は金……」という人に希望者が少ないとわかる。

これらの結果をまとめてみると、生活目標ごとに検討した場合、とくに「世の中は金……」を生活目標としている人が、ほかの目標をもった人にくらべて、やや異なる

傾向を示すことがわかる。

(3) まとめ

われわれは、生活意識に関する項目を、評価的な側面をみる項目群と、行動的な側面をみる項目群とにわけ、それぞれの項目群の内部での相互関連をみた。その結果、日常生活の評価については、職業生活に代表される、生活そのものについての評価と、生活環境についての評価の2つの観点からなされていることが明らかにされた。

一方、行動的な側面について、項目間の関連をみると、何を生活目標とするかによって余暇行動や小づかいの使いみちなどにちがいがみられることが示された。とくに、「世の中は金……」と考える人たちと「majime ni, 社会のために」という人との間には、行動にかなりのちがいがみられた。また、教育委員会行事への参加希望に関してみると、余暇として「読書・勉強」をあげる人に希望者が多いだけでなく、「スポーツ・趣味活動」をする人も多く、教育委員会行事に期待するものがかなり多様であることも示された。

以上の結果から、青年の意識について、生活評価の側面と行動の側面の相互関連を明らかにして、青年の意識構造がどのようになっているかの検討が必要になる。

2. 青年の意識構造について

1節でみたように、青年の意識に関する項目の相互関係は多様であり、青年の意識を多次元的にとらえ直すことが有意義であると思われた。さらに、意識構造が明らかにされた段階で、生活条件との関連も検討することが必要となると考えられる。そこで、青年の意識構造を明らかにするために、すでに1節で検討した項目を含めて附表11に示した項目を用いて、林の数量化理論第III類による分析を行なった。また、生活意識と生活条件との関連をみる目的で、附表10に示した項目を属性項目として用いて同時に分析を行なった。

附表11には、得られた第5根までの相関係数とカテゴリーウエイトを示した。いずれの根の場合も相関係数はあまり高くないが、カテゴリーウエイトの結果から、第4根までが解釈可能であると考えられた。以下では、第4根までの結果について検討を加えることとする。さらに、得られた結果の解釈を補うために、図1から図3に各根のカテゴリーウエイトを図示した。なお、これらに図示してある記号は、附表11に記載した記号と同一の内容のものである。

附表11から、第1根(X_1)は、社会的に望ましい反応と望ましくない反応とを分類していると思われる。したがって、第1根に名称を与えるとすれば、社会的望まし

原 著

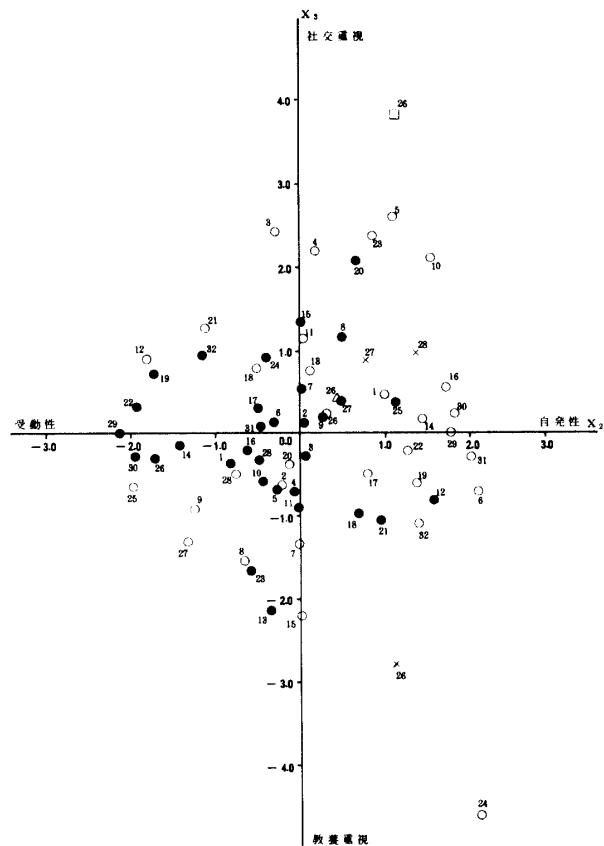


図1 青年の意識構造
(数量化理論第III類, 第2根 - 第3根)

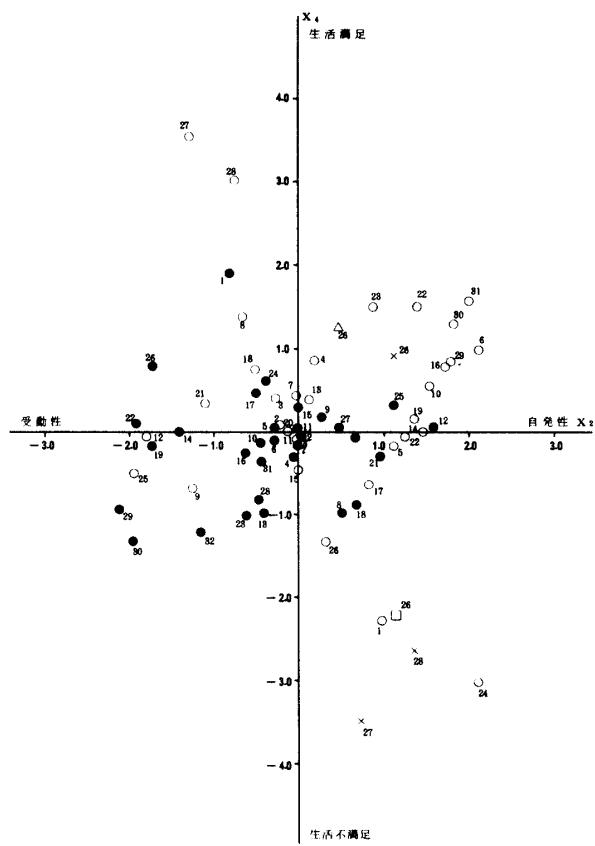


図2 青年の意識構造
(数量化理論第III類, 第2根 - 第4根)

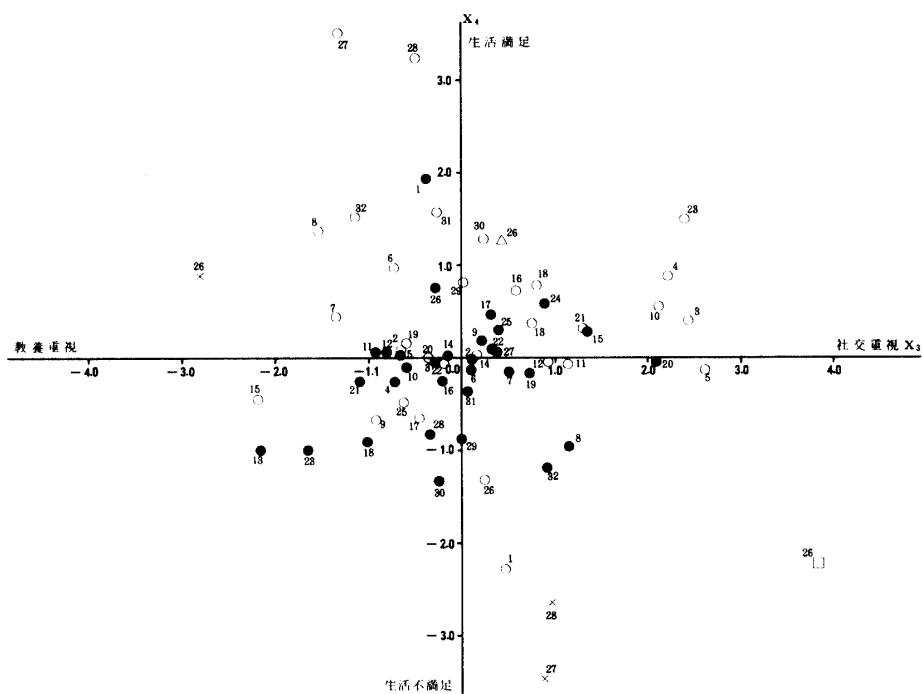


図3 青年の意識構造(数量化理論第III類, 第3根 - 第4根)

勤労青年の生活意識について

き因子ということになる。つぎに附表11と図1にもとづいて第2根(X_2)の内容についてみることにする。第2根でプラスの値をとる項目のうち、値の大きい10項目はつぎのとおりであった。

- 「余暇行動－読書・勉強をする」
- 「悩み－住宅のことがある」
- 「教育委員会行事への参加経験－あり」
- 「スポーツ施設要求－あり」
- 「文化施設要求－あり」
- 「小づかいの使いみち－娯楽費を使う」
- 「小づかいの使いみち－おしゃれ用品には使わない」
- 「相談相手－近所の友だちである」
- 「小づかいの使いみち－スポーツ・趣味に使う」
- 「教育委員会行事への参加希望－あり」

また、マイナスの値をとる項目のうち10項目を同じようにあげてみるとつぎのようである。

- 「文化施設要求－なし」
- 「余暇行動－身のまわりの整理をする」
- 「スポーツ施設要求－なし」
- 「余暇行動－スポーツ・趣味活動はしない」
- 「小づかいの使いみち－おしゃれ用品を使う」
- 「貯蓄目的－将来の購入資金ではない」
- 「生活目標－こつこつ働く」
- 「小づかいの使いみち－スポーツ・趣味には使わない」
- 「日常生活満足度－よい」
- 「相談相手－きょうだいである」

これらの結果から、第2根は自発的、積極的に行動することを意味する内容のカテゴリーと、受動的、消極的に行動することを意味するカテゴリーにまとめられる。そこで第2根には、「自発性 対 受動性」因子という名称を与えた。

同じようにして、附表11と図1、3にもとづいて、第3根(X_3)の内容について考えてみる。第3根でプラスにウェイトのある項目は、

- 「生活目標－世の中は金……」
- 「悩み－お金のことである」
- 「悩み－友人・仲間のことである」
- 「余暇行動－社交・つきあいをする」
- 「悩み－異性・結婚のことである」
- 「相談相手－近所の友だちである」
- 「余暇行動－休息・くつろぎはしない」
- 「小づかいの使いみち－書籍・授業料には使わない」
- などという項目に代表される。一方、マイナスにウェイトのある項目は、
- 「余暇行動－読書・勉強をする」
- 「生活目標－まじめに・社会のために」

「小づかいの使いみち－書籍・授業料を使う」
「小づかいの使いみち－飲食・嗜好品には使わない」
「余暇行動－社交・つきあいはしない」
「相談相手－親・妻・夫である」
「悩み－性格・健康についてである」
「日常生活満足度－よい」
「教育委員会行事への参加希望－あり」
などに代表される。これらの項目カテゴリーから、第3根は、仲間を求めるバイタリティにあふれた行動と、自分の世界で楽しむ行動とをわけていると考えられる。そこで、これらは「社交重視 対 教養重視」因子と名づけられた。

第4根(X_4)では、附表11と図2、3からプラスにウェイトのある項目として、

- 「日常生活満足度－よい」
- 「生活環境満足度－よい」
- 「悩み－仕事・勉強などについてでない」
- 「教育委員会行事への参加経験－あり」
- 「教育委員会行事への参加希望－あり」
- 「余暇行動－社交・つきあいをする」
- 「相談相手－親・妻・夫である」

などがあげられる。また、マイナスにウェイトのある項目は、

- 「日常生活満足度－わるい」
- 「余暇行動－読書・勉強をする」
- 「生活環境満足度－わるい」
- 「悩み－仕事・勉強についてである」
- 「生活目標－世の中は金……」
- 「スポーツ施設要求－なし」
- 「生活目標－趣味にあったくらし」
- 「教育委員会行事への参加希望－なし」
- 「余暇行動－社交・つきあいはしない」

などである。これらの項目から明らかのように、プラスにウェイトの大きい項目は、おもに、日常生活や生活環境についての満足と、社会教育や社交的なことがらに積極的であることを示している。一方、マイナスにウェイトの大きい項目は、プラス項目とは全く逆の項目であることがわかる。このことから、第4根は「日常生活満足 対 日常生活不満足」因子と呼ぶことができる。

上でみてきたように、数量化理論第III類による分析によって得られた4つの根のうち、とくに、第2根と第3根については、青年の意識と行動を理解する上で意味があると思われる。そこで、以下、第2根と第3根の結果についてみていくことにする。

図1から、第1象限(第1グループ)は金銭的な裏付けをもって積極的に仲間とのつきあいを求めようとする

男性タイプの行動パターンをよみとることができる。第2象限(第2グループ)は、未婚女性の行動パターンを示している。第3象限(第3グループ)は、日常生活の行動範囲が狭く、不活発で活動性の低いグループであり、第1グループとは対照的である。第4象限(第4グループ)は、まじめに生活設計をたてて、積極的に自己を鍛えつつ充実した生活を送ろうとするタイプである。これらの4つのタイプに代表される青年の生活が、さまざまな生活条件によって規定されていることは想像に難くない。

そこでつぎに、青年の生活条件のちがいが、青年の意識と行動にどのように反映しているかをみるために、属性項目ごとに各根での平均スコアを求めた。第2根(Y_2)と第3根(Y_3)における属性項目別パターンを示したのが図4-Aと図4-Bである。図にもとづいて、各グループの特徴を記述することにする。

第1グループは、大企業に勤務している者が主体で、月収は標準的でありながら、小づかいの額が多い。また、職場は一宮市以外にあり、通勤時間もかなりかかるが、週休2日制度があり、活気のある生活を送ることができる。産業としては、建設業などが考えられる。

第2グループは、サービス業、小売業に属する15歳から21歳の青年で、市内に職場があるが通勤時間は30分以上かかる。

第3グループは、第1グループとは対照的に職場は中あるいは小規模で、週休2日制度もなく、また、小づかいとして使うことのできる額も少ない。職場は、通勤時間が30分以内の市内にあり、製造業に属する人たちである。

第4グループは、年齢22歳から24歳で、収入もよく、金融・公務関係の仕事をしている青年である。したがって、他のグループに比べると生活が安定しており、一宮在住の青年の中では、やや恵まれたグループである。

これまでみてきたように、青年たちを意識と行動の関連でみてみると、積極的自発的に行動をするタイプと、消極的で日常性に埋没して、あまり自ら進んでは行動しないタイプとに分けられる。しかも、彼らはさらに、対人的な関係をもつことに重点をおいて、自分の行動圏を家庭生活の外にまで拡げていくタイプと、日常生活の行動範囲の中で、個人中心の生活をするタイプとに分けられる。これらのタイプのちがいは、必ずしも彼らの生き方に原因があるのではなく、生活条件との関連からも明らかのように、月収や小づかいの額、さらには、それらを規定している職場条件が大きく作用していることがわかる。これを、青年期における仲間づくりという観点から考えるならば、青年自身のものの考え方や行動パターンが仲間づくりに大きく関係していることはもちろんであ

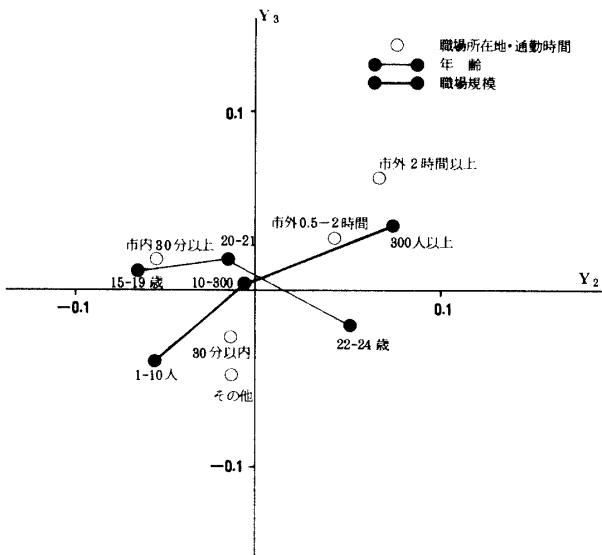


図4-A 属性別パターン
(第2根-第3根; 年齢、職場規模、
職場所在地・通勤時間)

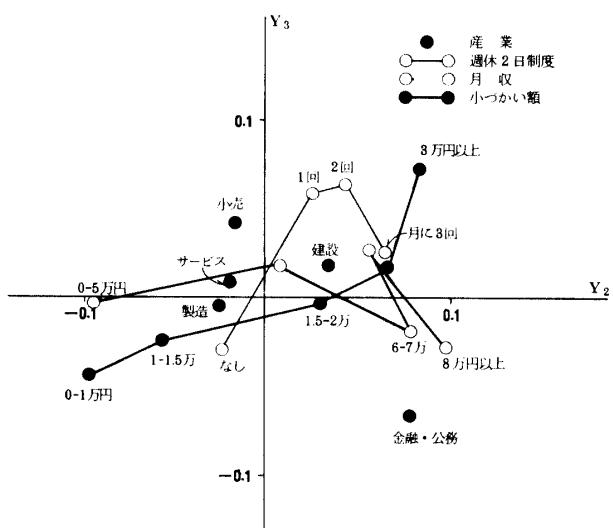


図4-B 属性別パターン
(第2根-第3根; 週休2日制度、産業、
月収、小づかい額)

勤労青年の生活意識について

るが、それよりも、多様な生活条件の中で、青年たちが参加しやすい仲間づくりの条件を明らかにすることが要請される。そこでつぎの3節では、教育委員会行事への参加希望のあり・なしおよび参加意欲のあり・なしを規定する諸要因について明らかにすることにする。

3. 教育委員会行事への参加意欲について

青年がどのような余暇行動をとるのかということは、単に生き方の問題ではなく、生活条件とも深いかかわりをもっていることは、前節でみたとおりである。そしてその行動のパターンはかなり多様であるが、いくつかの共通点を見出すこともできた。われわれは、今回分析に用いたデータにもとづいて、教育委員会行事への参加意欲のあり・なしなどを規定している要因を明らかにすることを試みた。

まず第1に、どのような行事への参加経験および参加希望について概観し、あわせて参加を希望する理由および参加を希望しない理由について検討する。ついで、参加希望のあり・なし、および参加意欲のあり・なしを規定している条件を検討するために、林の数量化理論第II類による分析を行なう。

表2に示したように、教育委員会行事への参加経験者はあまり多くはない。しかし、今後参加を希望する者は半数ほどあり、とくに参加経験者に参加希望が多く、参加経験のない者はあまり希望していないことがわかる。このように、参加経験と参加希望についての回答の組合せから、青年たちを教育委員会行事への参加意欲の程度に応じて、4つのタイプにわけることができる(表2)。

表2 教育委員会行事への参加経験と参加希望について

参 加 希 望	し た い	し た く な い
全 体 (100.0)	710 (45.2)	321 (54.8)
経験あり (100.0)	132 (65.2)(I)	86 (34.8)(II)
経験なし (100.0)	578 (40.7)(III)	343 (59.3)(IV)
χ^2 — 検定		* * *

注) 表中、I, II, ... は青年のタイプを示す。

ところで、今回の調査では、参加希望のタイプIとタイプIIIの青年に対しては、参加目的を、参加を希望していないタイプIIとタイプIVの青年に対しては、希望しない理由をたずねた。そこでつぎに、附表12、附表13をみながら、彼らの参加目的あるいは不参加理由をみていく

こととする。なお、いずれの場合も3つまで選択が可能であった。

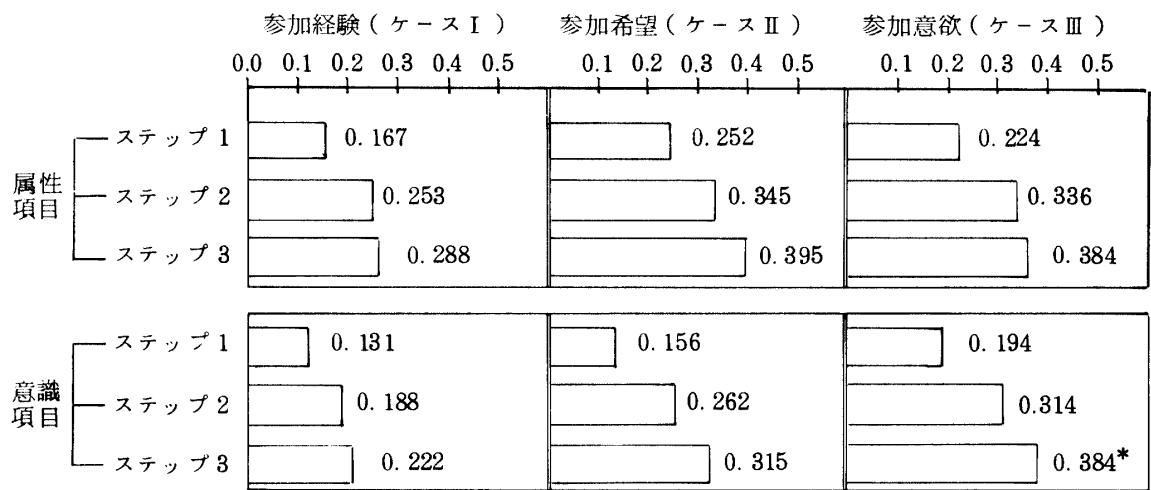
附表12から明らかなように、参加目的として多くあげられているのは、スポーツ、職業的技術、趣味、家政であり、この傾向は、タイプI, IIIとも同じである。一方、不参加の理由について調べたのが附表13である。不参加理由の第1位は、「仕事の都合」であり、以下順に、「とくに理由なし」「やることがわからない」である。タイプIIとIVとのちがいは明確ではないが、タイプIVの中では「やることがわからない」という者が13.1%いるということは、青年たちの消極さとともに主催者側のPR不足を示すものである。

以上をまとめてみると、参加希望者は、このような行事に趣味やスポーツ活動を求める場合が多く、一方、不参加者は仕事の都合でというほかに、ただ何となく参加したくないと思っている場合が多いことがわかる。すでに、1節、2節でみたように、積極的にスポーツや趣味活動に参加しようとするか否かは、生活条件や生き方のちがいによる場合が多く、この傾向が教育委員会行事への参加-不参加にも反映されているといえる。

われわれは、この知見をもとに、行事への参加-不参加を規定する要因をさらにくわしく検討するために、林の数量化理論第II類による分析を行なった。ここで用いる数量化理論第II類は、外的基準を分類(グループ)で与えており、2つ以上のグループを判別する場合に、全体としてグループがどの程度分離しうるかを相関比(η)で示している。また、各説明変数のカテゴリーの数値の大きさや方向について比較して、各サンプルのどの特性がグループの差異に強く効いているかを知ることもできる。さらに、説明変数をいくつかの群にわけて順次判別得点の算出式に加え、ステップごとの分析を行なって、相関比がどのように変化するかをみることも、計算プログラムによっては可能である(水野ほか, 1977)。

本研究では、外的基準を参加経験のあり・なし(ケースI), 参加希望のあり・なし(ケースII), 参加意欲のあり・なし(ケースIII)のそれれとし、説明変数を属性項目だけの場合と意識項目だけの場合とに分けて分析を行なった。いずれの場合も3ステップの分析をしたが、属性項目の場合の説明変数は、附表10の備考欄にF1とある項目をステップ1で用い、ステップ2ではF2とある項目ならびに意識項目のうちの「生活目標」を追加した。同様にして、ステップ3ではF3項目を追加した。意識項目の場合には、附表11の番号1から11までをステップ1で用い、12から19までをステップ2で追加し、20から25と27, 28をステップ3で追加して分析した。^{*}

分析結果のうち、相関比については、図5に示したと



*すべての属性項目を加えると相関比は 0.528 となる。

図 5 教育委員会行事への参加に関する数量化理論第Ⅱ類の結果（相関比）

おりである。ここで、参加意欲については表 2 におけるタイプ I を「参加意欲がある」者、タイプ IV を「ない」者として扱い、この 2 つのタイプについての判別を行なった。説明変数が属性項目の場合にも、同じような結果が得られた。すなわちケース I の場合には、属性項目でも意識項目でも相関比は大きくなく、判別が効果的に行なわれなかつたことを示している。ケース II の場合には、属性項目を用いた場合の方が判別がよく行なわれたことがわかる。一方、ケース III の場合には、属性項目でも意識項目でも同じ程度の判別が行なわれ、さらに属性項目と意識項目をあわせて分析した場合には、かなり高い相関比が得られた。この結果は、判別がかなりうまく行なわれたことを示している。

相関比の結果にもとづいて、以下では、ケース II で説明変数として属性項目を用いた場合（適中率 65.7%）と、ケース III ですべての項目を説明変数に用いた場合（適中率 78.0%）の結果について述べることにする。

図 6 には、ケース II の分析で得られた偏相関係数を大きい順に図示した。偏相関係数は、他の要因を除去した場合に、ある要因が一方のグループと別のグループとを識別するのにどの程度の効果をもつかを示している。図から明らかのように、全体に偏相関係数が低く、最も効果があるのは「これまでの参加経験」である。図 6 に示した上位 9 变数のうち、とくに効果の著しいものがあるわけではないが、上位 5 变数が有力であると考えて、それらの説明変数のカテゴリーの数値の大きさと方向をみることにする（図 7）。

図 7 によれば、これまでに参加経験があることは、参加希望に強く効いているが、さらに、一宮市での生活経験年数が「1 - 3 年」であることや、小づかいの額が「10,000 - 20,000 円」であることも効いている。また、生活目標が「まじめに働く」ことであることも参加希望と関係がある。一方、「世の中は金……」という生活目標は、参加を希望しないことに強く効いており、このちがいは、教育委員会行事そのものの雰囲気を規定する要

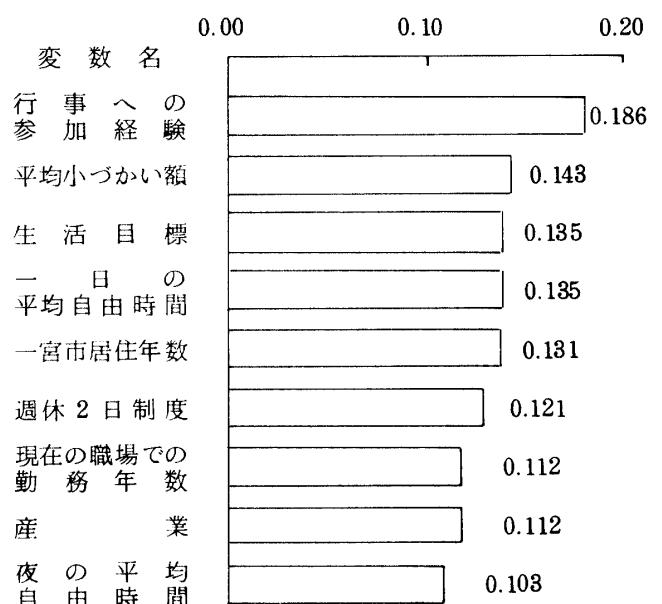
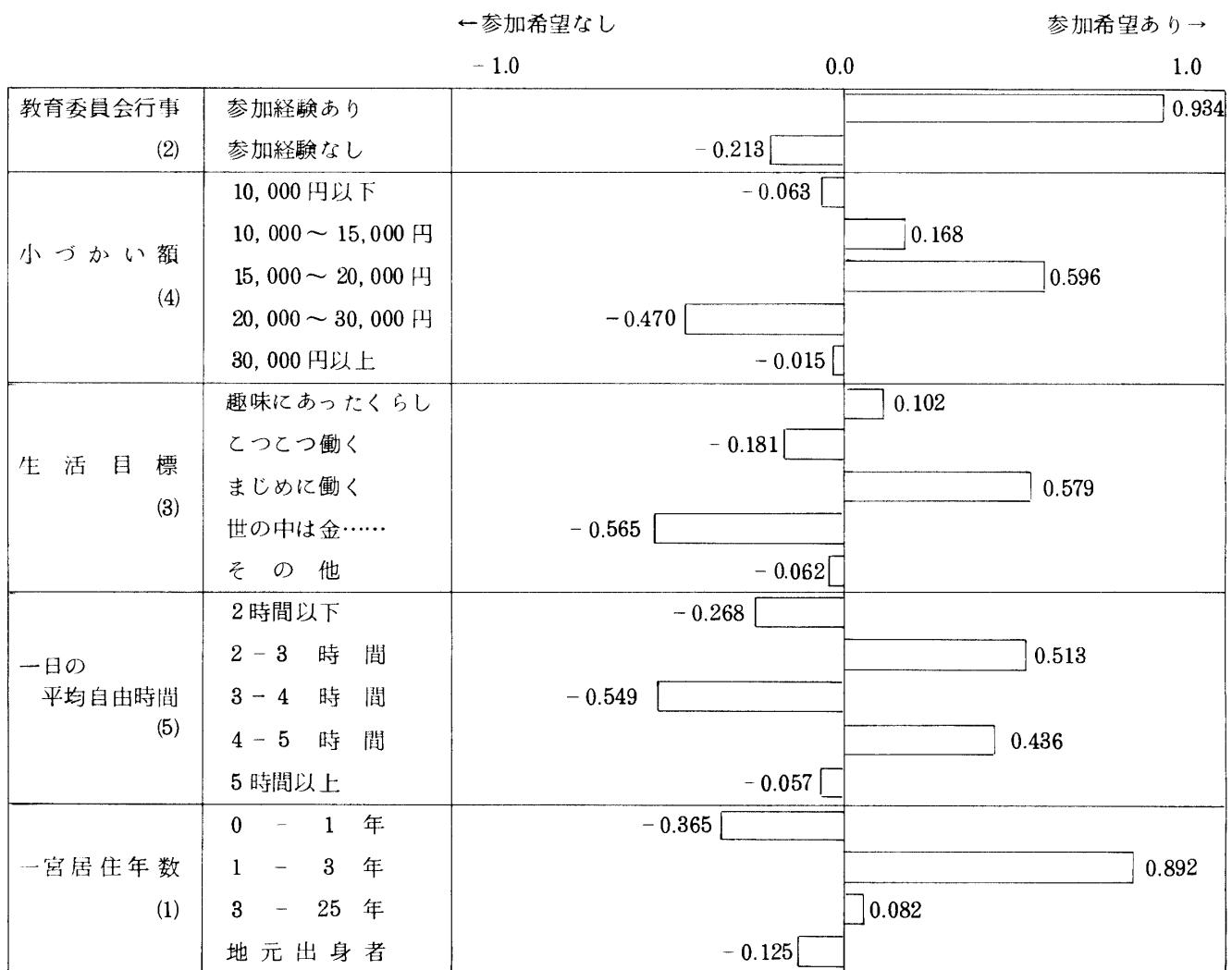


図 6 参加希望あり・なしによる偏相関係数の順位（上位 9 位）

*（前頁）なおケース III では、すべての属性項目と意識項目を用いた分析も行なった。結果はのちに述べる。

勤労青年の生活意識について



注) (1)～(5)はレンジの大きさの順位を示す

図7 参加希望あり・なしについての数量化理論第Ⅱ類の結果

因であるとも考えられる。上記の要因のはかに、不参加に強く効いている変数をみると、平均自由時間の量が「3～4時間」であること、さらに居住年数が「0～1年」であることなどが該当することがわかる。居住年数が1年未満であることが、参加を希望しないことと関係しているということは、一宮市への転入者に対してPRが十分行き届いていないことを示唆している。

ケースⅢについての分析結果を示したのが、図8、図9である。図9から明らかのように、参加意欲を規定する要因として顕著なものはないが、小づかいの額や職場所在地・通勤時間、自由時間の量、残業の頻度などのはかに、余暇行動や生活目標についての偏相関係数も比較的大きいことがわかる。つぎに、これらの結果にもとづいて、図9を検討してみる。カテゴリーウエイトも偏相関係数と同じようにあまり大きくなく、参加意欲のあり・なしを説明するための有効な変数を見出すことはむつか

しい。しかし、図9に記したレンジの大きさの順位にしたがってみていくと、「1日の平均自由時間」「余暇行動・読書・勉強」「夜の平均自由時間」「職場所在地・通勤時間」などが有力な説明変数として考えられる。これらのうちで、とくに注目しておきたいのは、「職場所在地・通勤時間」「残業の頻度」などの職業生活の条件に関してである。結果はあまり明白ではないが、職場が市内で30分以内のところにあること、残業がかなりスケジュール化しているあるいは全くないというように、スケジュールがたてやすいことが参加意欲に強く効いている。この点は、青年自身ではどうにもならない要素を含んでおり、行事を企画する場合の参考になると思われる。「余暇行動」「生活目標」についてみると、「余暇行動・読書・勉強をする」「余暇行動・社交・つきあいをする」「生活目標・まじめに働く」「生活目標・趣味にあつたらし」を選ぶことが、参加意欲に強く効いている

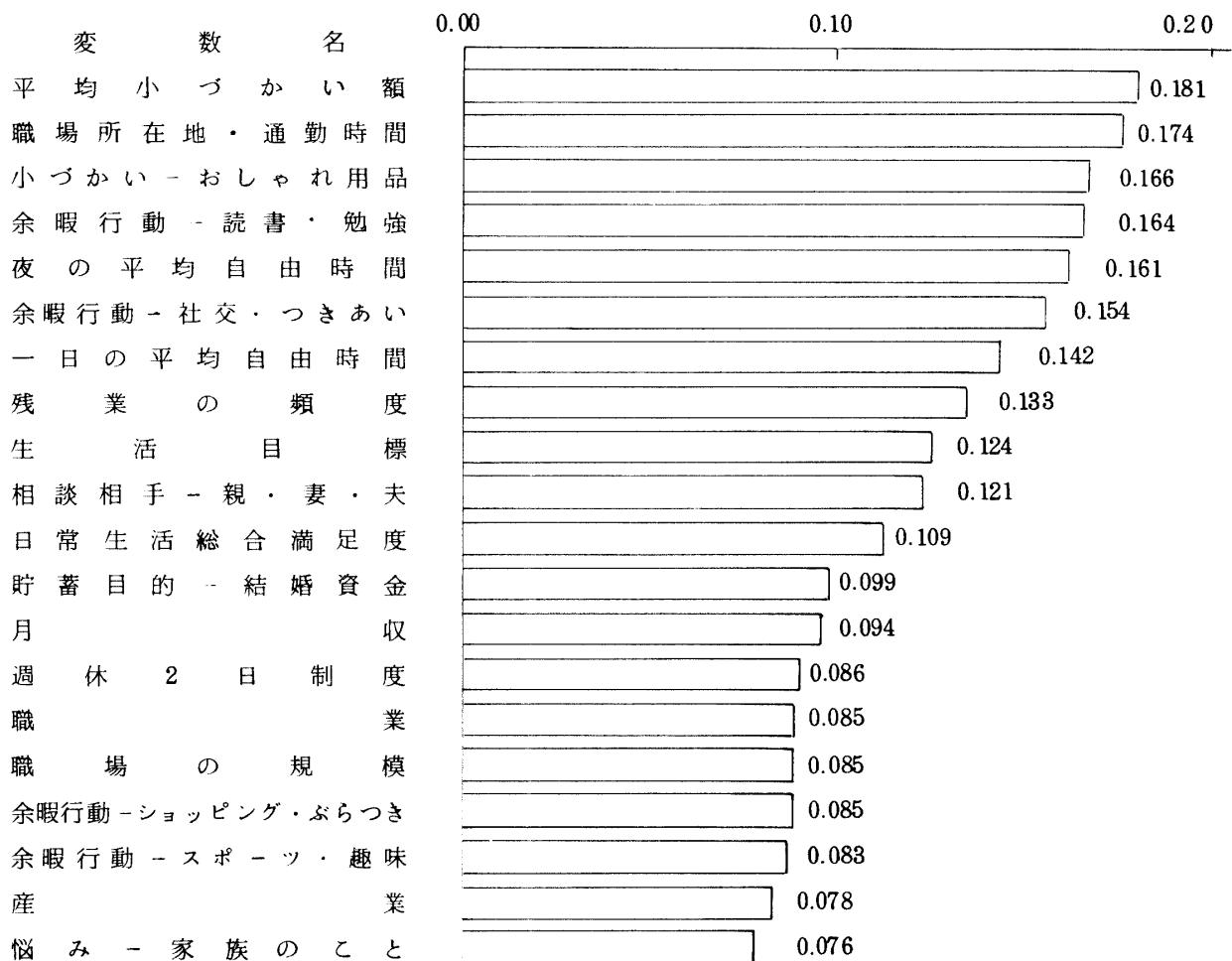


図8 参加意欲あり・なしによる偏相関係数の順位(上位20位)

ことがわかる。このことは、先に述べたように、教育委員会行事に青年が求めているものを知る手がかりになると同時に、そのような行事に参加してくる青年たちがどのようなタイプの青年であるかということを知る手がかりにもなる。さらにこのような知見をもとに、別のタイプの青年たちを行事に参加させるにはどうしたらよいかということも検討できる可能性を残しているといえる。

IV 討論

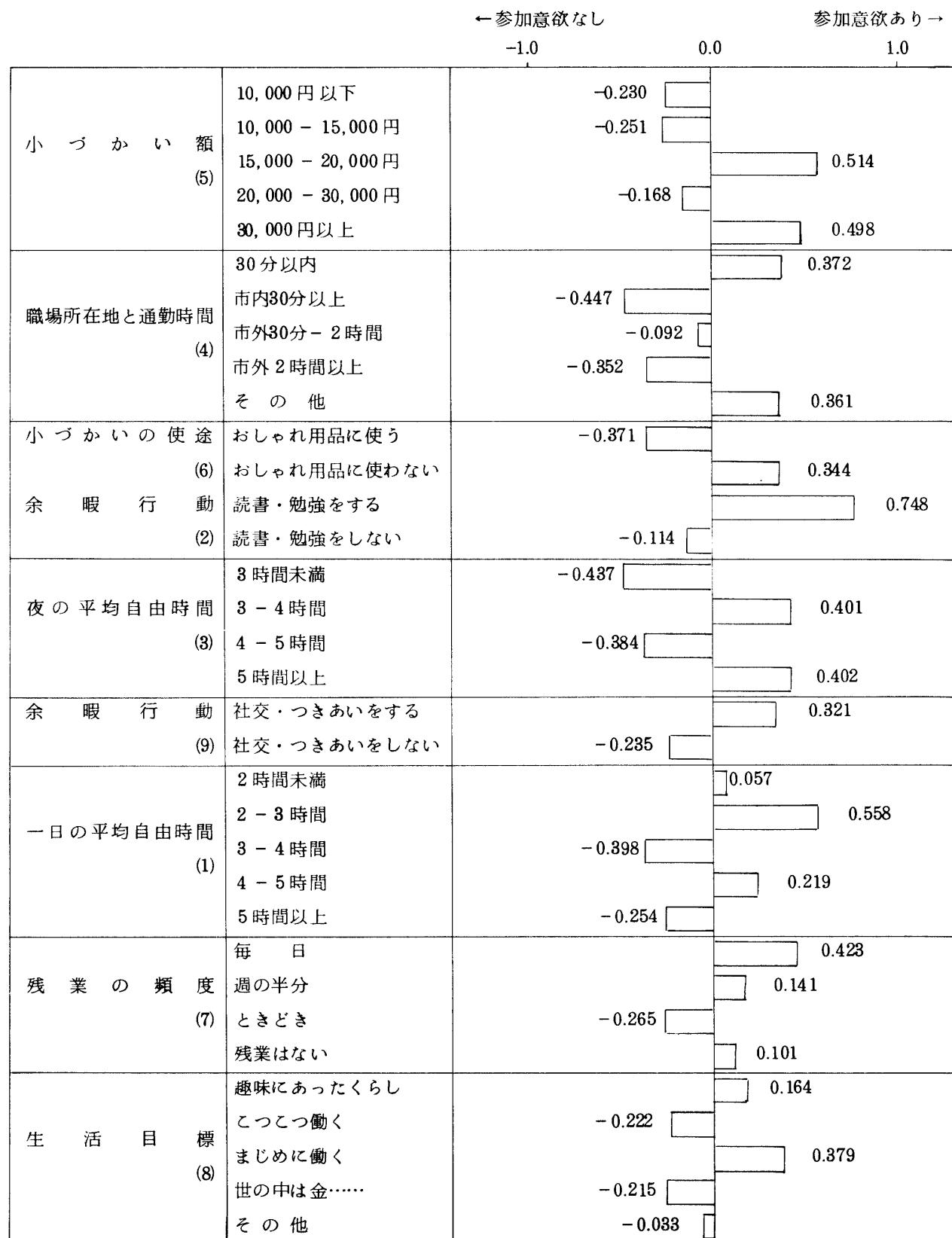
われわれは、一宮市で行なわれた青年の意識調査データの2次分析を通して、勤労青年の意識構造がどのようにになっているのか、また、青年が教育委員会の行事を通じて仲間づくりをする場合に関係している有力な要因が何であるかを明らかにしようとした。以下ではこの目的に沿って、1節では勤労青年の意識構造について、2節では青年の集団参加の要因について、3節では全体のまとめと問題点について考察する。

1. 勤労青年の意識構造について

われわれは、勤労青年の意識構造を明らかにし、生活条件によってどのようなちがいがみられるかを明らかにするために、主としてクロス集計表による分析と数量化理論第Ⅲ類による分析を行なった。得られた結果をまとめてみると、次のようである。

- (1) 青年たちは、日常生活についての評価を、おもに、職業生活を中心とした日常生活そのものについての評価と、生活環境についての評価との2点から行なっている。これらの評価について、生活条件によるちがいは明確ではないが、日常生活についての評価は、専門職・経営・管理職などの人の方がほかの人よりもよいこと、また収入の多い人ほどよいことなどが示された。
- (2) 余暇行動、小づかいの使いみち、生活目標、教育委員会行事への参加希望などの日常生活の行動的側面について相互の関連をみた。その結果、生活目標によって、余暇行動や小づかいの使いみちにかなりのちがいがみられることが示された。また、余暇行動のうち「読書・勉

勤労青年の生活意識について



注) (1)～(8)はレンジの大きさの順位を示す

図9 参加意欲あり・なしについての数量化理論第II類の結果

強」や「スポーツ・趣味活動」をする人の中に、教育委員会行事への参加を希望する者が多いことが示された。

(3) 勤労青年の生活意識の構造を明らかにする目的で、林の数量化理論第Ⅲ類を用いて分析を行なった。その結果、「社会的望ましさ」因子、「自発性 対 受動性」因子、「社交重視 対 教養重視」因子、「日常生活満足 対 日常生活不満足」因子の4つの根を見出すことができた。

(4) 得られた根のうち「自発性 対 受動性」因子および「社交重視 対 教養重視」因子の解釈を中心に、生活条件との関連を検討した。そして、そこで見出された4つのグループの行動の特徴は、生活目標によるちがいというだけでなく、生活条件によって大きく規定されていると考えられた。

これまで述べてきた結果のまとめにもとづいて、勤労青年の意識構造について検討を加えることにする。

青年の意識構造を問題とするとき、彼らの生活の状況を考慮せねば片手落ちであるということが、本報告の出発点にあった。分析の結果をまとめてみると、ますますその感が強く、生活条件との関連をみながら、青年の生活意識について検討することの意義をあらためて確認したといえる。

そこでまず、調査の対象となった青年たちの特徴を大まかにみることにする。一宮市は織維産業の中心地になり、調査実施時点までは毎年多数の中学校卒業者を他県から集団就職というかたちで受け入れてきた。一方、近年は、名古屋都市圏の中でのベットタウンとして、名古屋などに仕事場をもつ会社の寮や、一般の住宅、アパートなどへの市外からの転入者が増加しつつあった。さらに、もともと一宮で育った人たちは、愛知県下の高校・大学への平均進学率の上昇に歩調を合わせるかの如く、上級学校への進学をめざした。このような、3者3様の青年期をすごしている青年たちがもっている生活についての考え方、生活の評価、日常生活の中での行動パターンもまたさまざまである。とくに、報告書(一宮市教育委員会、1975)の中でも述べられているように、生活環境についての評価が、地元出身の青年と他都市出身の青年、とりわけ寮に居住している青年との間では非常にちがうこと、また、今回の2次分析で明らかにされたように、職業や収入の額によって日常生活についての評価が異なることなどの事実が明らかにされた。このことは、今回の分析によって、一宮市に生活する青年たちの特徴をいくつか明らかにすることことができたことを意味する。それとともに、生活目標についての調査結果に示されるように、ほかでの同様の調査(たとえば、総理府青少年対策本部、1976)で明らかにされている、最近の青年のものの考え方

方を裏付ける結果もあることが認められた。

このように、個々の回答についてみていくとき、青年は1人1人が独自の存在であるように考えられがちであるが、多変量解析などの手法を用いて分析をしてみると、現在の青年をいくつかのタイプに分ける手がかりを見出すことができる。本報告では、数量化理論第Ⅲ類による分析を行なったが、得られた4つの根のうち、とくに「自発性 対 受動性」因子と「社交重視 対 教養重視」因子は青年の行動について考える上で役に立つものであった。この2つの因子についての解釈は、おもに余暇行動と小づかいの使いみちに対する反応によっているが、最近報告された調査結果(国民生活センター、1978)の中には、参考になる部分が多い。その調査では、調査の方法や対象は全く異なっているが、自由時間活動のパターン分類を行なう目的で数量化理論第Ⅲ類による分析を行なっている。得られた結果から、第1根は「男性的 対 女性的」、第2根は「積極的 対 消極的」、第3根は「個性的 対 一般的」な行動パターンを示していると考えられた。この内容を検討してみると、本報告で得られた第2根、第3根は、それぞれ上述の調査での第2根、第3根に内容的に近いことがわかる。

これらのことから、一宮市に生活する勤労青年の生活意識や行動パターンは、全体的な構造という点からみれば、一般的な青年あるいは成人と大きなちがいはないであろう。しかしながら、個人の生活条件によるちがいを属性別スコアにもとづいて検討してみると、彼らの生活を規定している条件の複雑さ、多様さに気づくのである。この点を考慮に入れながら、2節では、青年の集団参加を規定している要因について検討することにする。

2. 青年の集団参加を規定する要因について

われわれは、教育委員会が主催する行事への参加という問題を通じて、青年が職場以外の集団に何を求めているのか、また参加を阻止している要因は何かを考える手がかりを得ようとした。

主な知見は次のとおりである。

- (1) 参加経験と参加希望についての回答から、青年を4つのタイプに分けることができる。参加経験者に参加を希望する者が多かった。
- (2) 参加を希望する者が目的としてあげる項目は、「スポーツ」「職業的技術・家政」「趣味」が多かった。一方、参加を希望しない者があげる不参加の理由の中では「仕事の都合」「とくに理由なし」「やることがわからない」が目立った。
- (3) 参加経験のあり・なし、参加希望のあり・なし、そして両者を組み合わせた参加意欲のあり・なしについて、

勤労青年の生活意識について

林の数量化理論第Ⅱ類による分析を行なった。その結果、外的基準が参加希望、参加意欲の場合には判別が効果的に行なわれた。また、参加希望の場合は属性項目を説明変数として用いた時に判別効果がよいこと、参加意欲の場合は属性項目と意識項目をいっしょに説明変数として用いた時に判別効果がよかった。

(4) 参加希望・参加意欲を規定している要因は多様であるが、生活目標、通勤時間、残業の頻度、余暇行動の内容などが有力な説明変数であった。

これらの結果をまつまでもなく、青年が集団に参加する目的は多様であり、また参加を阻止する要因も多彩である。しかし、教育委員会が主催する行事の場合、内容としてはかなり具体的なものが多く、参加を希望する者も目的をもちやすい。それだけに、逆に、このような行事に参加を希望しない者の理由をくわしく検討することは、主催者側として重要な問題になってくる。

参加を希望しない理由の第1位は「仕事の都合」であるが、ここで問題となるのは「ただなんとなく」「やることがわからない」という理由をあげた人が多いということである。多変量解析による分析結果からも明らかであるが、たしかに通勤時間や残業の頻度など仕事に関係した変数が参加意欲を規定する要因としてあげられている。このことは、青年の中に必ずしも毎週決まった予定をたてることができない人たちが多くいることを示している。そして、このことが、教育委員会行事を企画する際の最大の問題点ともいえる。

一方、「ただなんとなく」「やることがわからない」という理由をあげるということは、この種の行事に積極的に関心を示さないというふうに理解してよいであろう。したがって、このような人たちに対する対策の1つとして、PR活動を十分に行なう必要がある。しかし、そもそも生活目標や余暇行動の内容が参加希望者とはかなり異なることから、そのような青年たちの関心を教育委員会が主催する行事に向けさせることはかなりむづかしいと思われる。またこのことは、裏を返せば、この種の行事に参加する青年がかなり類型化されており、全体の雰囲気も固定化するのではないかという懸念がある。この点に関しては専門家の批判を待たねばならないだろう。

3. まとめ

われわれは、昭和48年10月に一宮市で行なわれた青年の実態調査のデータにもとづいて、2次の分析を試みた。今回は、とくに勤労青年の生活意識の構造を明らかにすること、また青年の生活条件が生活意識のちがいにどのようにあらわれるかを明らかにすることを目的とした分

析を行なった。しかし、もともと生活意識の様相を明らかにすることを目的とした調査ではないために、青年の生活意識の構造を十分解明できたとは思われないし、高校生や大学生には質問項目を限定したために、勤労青年との比較が十分できなかったことも問題点として残された。

さらに、数量化理論第Ⅲ類の結果にみると男性と女性とではかなり異なる行動パターンを示すことが予想されること、また今回の報告では抽出方法が異なるために分析から除外した寮女子青年についての分析結果との比較も興味ある問題である。

つぎに、この種の調査が実施される場合に参考になると思われるいくつかの問題点を指摘することにする。

すでに述べたように、一宮市は織維産業の中心地であり、多様な青年をかかえていることが特徴であった。しかし、この実態調査が行なわれた昭和48年末には、いわゆるオイル・ショックのために、基幹産業は大きな打撃を受け、倒産や操業短縮などに追い込まれた。そして、その影響は当然、勤労青年にも及び、転職や帰郷などを余儀なくされた。したがって、本報告に述べられた数字や結果は、ある意味で一時代前の姿を示しているにすぎないともいえる。しかし、時代が変わるからこそ、前の時代の姿が比較の対象として意味をもってくる。調査実施時からすでにかなりの時間が経過しているにもかかわらず、あえて報告した意図はこの点にある。そしてまた近い将来に、もう一度青年を対象とした生活と意識に関する社会調査が計画されることを期待するものである。

この調査についてのもう一つの問題点は、調査項目に関係している。本来、この調査は実態調査を目的としていたために、具体的な事実に関するデータの収集に力点を置きすぎたきらいがある。その結果、たしかに青年の生活条件はくわしく描くことができたが、その反面、青年の意識についてとらえる項目が不十分であり、焦点を絞り切れなかつたきらいがある。今後の調査では、本報告でとり上げられた重要な生活条件とともに、青年の生活意識や行動の特徴を明確に描くことのできるいくつかの項目的を絞って調査を計画する必要があると思われる。

付 記

本報告は、一宮市教育委員会が東海社会教育研究会に委託してなされた青年の生活実態調査のデータによる2次の分析である。調査に参加する機会を与えていただきまたデータを分析する機会を与えていただいた、一宮市教育委員会、青年の家、ならびに、小堀勉名古屋大学名誉教授に深く感謝いたします。

原 著

文 献

一宮市教育委員会 1975 いちのみやの青年の実態 一
宮市教育委員会
国民生活センター（編） 1978 変動期における生活意識と行動 金子書房

水野欽司・三宅一郎 1977 HAYASI : 2 数量化理論 2類 三宅一郎・中野嘉弘・水野欽司・山本嘉一郎 SPSS 統計パッケージ：II 解析編 東洋経済新報社
総理府青少年対策本部（編） 1976 青少年の連帯感などに関する調査 大蔵省印刷局

ATTITUDES TOWARD DAILY LIFE OF WORKING ADOLESCENTS

Motomichi GOTO and Yoshio UTIDA

This paper is a secondary analysis of the survey data collected by the board of education of Ichinomiya city, Aichi Prefecture, in the fall of 1973. About 1500 adolescents (15-24 yr. olds) were interviewed to make clear what they think about daily life. The questionnaire includes such items as social background, working conditions, job satisfaction, behaviors in free time, attitudes toward daily life, assessment on environments, and evaluation on adult education. In this paper, the data of job holders are analyzed. This paper intends to make clear the structure of attitudes toward daily life of working adolescents, and to examine what they expect from several programs of adult education, and what prevented them from attending those programs. The Hayashi's quantification method was used.

Some of the major findings are :

- 1) The most important structural dimension can be labeled as "activity vs. passivity". Another dimension can be labeled as "social relation-oriented vs. personal life-oriented". Four groups divided on the basis of these dimensions showed various patterns of behavior and attitude.
- 2) Whether or not they participated in activities of adult education depend on not only attitudes toward daily life, but also job schedules and their behavioral patterns in free time.

In general discussion, it is emphasized that those patterns depend on both attitudes toward daily life and life conditions including job conditions.

勤労青年の生活意識について

附表1 職業生活に関する満足度——属性別平均値——

		N	仕事の適性	職場の人間関係	収入	仕事の将来性	職業全体の評価
全 体		711	M (S.D.)	2.18 (1.09)	1.88 (0.85)	2.97 (1.34)	2.65 (1.16)
性 別	男 子	412	M (S.D.)	2.14 (1.09)	1.85 (0.81)	3.10 (1.37)*	2.62 (1.19)
	女 子	299	M (S.D.)	2.22 (1.09)	1.92 (0.90)	2.80 (1.28)	2.69 (1.13)
職 業	作業・運輸	246	M (S.D.)	2.16 (1.11)	1.96 (0.92)	3.00 (1.34)	2.69 (1.16)
	販売・サービス	140	M (S.D.)	2.04 (1.01)*	1.81 (0.72)*	2.86 (1.27)	2.69 (1.16)**
	事 務	182	M (S.D.)	2.47 (1.14)**	1.91 (0.88)	3.07 (1.33)	2.74 (1.18)**
	そ の 他	143	M (S.D.)	1.97 (0.99)	1.78 (0.79)	2.92 (1.40)	2.26 (1.03)
月 収	50,000円以下	239	M (S.D.)	2.29 (1.12)	1.97 (0.91)	3.09 (1.32)	2.87 (1.16)*
	50,000円～60,000円	193	M (S.D.)	2.27 (1.08)*	1.94 (0.89)*	2.99 (1.30)	2.59 (1.09)*
	60,000円～70,000円	106	M (S.D.)	2.03 (1.05)	1.66 (0.69)**	3.14 (1.42)*	2.57 (1.14)
	70,000円～80,000円	81	M (S.D.)	1.94 (0.98)	1.91 (0.90)	2.89 (1.21)	2.43 (1.12)
	80,000円以上	92	M (S.D.)	2.05 (1.12)	1.75 (0.64)	2.52 (1.35)	2.53 (1.28)
生 活 標 標	趣味にあったくらし	186	M (S.D.)	2.83 (1.12)	1.91 (0.84)	2.96 (1.33)	2.72 (1.12)
	こつこつ働く	196	M (S.D.)	2.18 (1.15)*	1.90 (0.85)	2.89 (1.31)	2.63 (1.14)
	はじめて、社会のために	118	M (S.D.)	2.04 (1.04)	1.77 (0.76)△	3.13 (1.38)	2.53 (1.15)
	世の中は金…	77	M (S.D.)	2.14 (1.13)	2.00 (0.94)	3.32 (1.36)	2.70 (1.30)
	太く短い生活						2.69 (1.20)
	そ の 他	134	M (S.D.)	2.08 (0.94)	1.84 (0.87)	2.77 (1.28)	2.69 (1.17)
小 づ か い	10,000円以下	151	M (S.D.)	2.16 (1.21)	1.89 (0.91)	2.89 (1.28)	2.64 (1.09)
	10,000円～15,000円	163	M (S.D.)	2.16 (1.22)	1.88 (0.85)	2.89 (1.34)*	2.67 (1.18)
	15,000円～20,000円	111	M (S.D.)	2.15 (1.12)	1.86 (0.72)	3.21 (1.26)	2.68 (1.18)
	20,000円～30,000円	175	M (S.D.)	2.15 (0.99)	1.85 (0.84)	3.01 (1.36)	2.51 (1.14)△
	30,000円以上	111	M (S.D.)	2.28 (1.51)	1.94 (0.91)	2.98 (1.41)	2.84 (1.27)
							2.70 (1.18)

注) 表中の2つのカテゴリ間の有意差検定であるかを→で示す。***印は、平均値の差の検定の有意性がP<.001であることを示す。同様に**はP<.01, *はP<.05, △はP<.10であることを示す。有意性については、以下の表においても同様である。

原著

附表2 日常生活に関する満足度 一属性別平均値一

N		人の気持		自然環境		生活の便利さ		文化的環境		街への愛着		日常生活全体	
全 体		M (S.D.)	2.88 (1.04)	2.53 (1.25)	2.36 (1.31)	2.96 (1.15)	2.36 (1.08)	2.36 (1.08)	2.56 (1.09)	2.36 (1.05)	2.29 (1.05)	2.59 (1.12)	2.56
性別	男 子	412	M (S.D.)	2.85 (1.07)	2.59 (1.29)	2.35 (1.32)	3.02 (1.19)	2.29 (1.05)	2.59 (1.12)	2.29 (1.05)	2.29 (1.05)	2.59 (1.12)	2.59
	女 子	299	M (S.D.)	2.93 (1.00)	2.45 (1.20)	2.37 (1.31)	2.88 (1.07)	2.47 (1.10)	2.51 (1.04)	2.47 (1.10)	2.47 (1.10)	2.51 (1.04)	2.51
職業	作業・運輸	246	M (S.D.)	2.87 (1.08)	2.56 (1.32)	2.44 (1.34)	2.82 (1.12)	2.31 (1.00)	2.59 (1.11)	2.31 (1.00)	2.31 (1.00)	2.59 (1.11)	2.59
	販売・サービス	140	M (S.D.)	2.89 (1.07)	2.44 (1.16)	2.21 (1.24)	2.89 (1.16)	2.33 (1.13)	2.64 (1.09)	2.33 (1.13)	2.33 (1.13)	2.64 (1.09)	2.64
業	事 務	182	M (S.D.)	2.90 (1.02)	2.51 (1.19)	2.40 (1.32)	3.12 (1.11)	2.45 (1.13)	2.60 (1.09)	2.45 (1.13)	2.45 (1.13)	2.60 (1.09)	2.60
	そ の 他	143	M (S.D.)	2.88 (1.06)	2.60 (1.31)	2.31 (1.32)	3.08 (1.20)	2.38 (1.08)	2.36 (1.02)	2.38 (1.08)	2.38 (1.08)	2.36 (1.02)	2.36
月収	50,000円以下	239	M (S.D.)	2.90 (0.96)	2.51 (1.22)	2.38 (1.28)	2.86 (1.05)	2.47 (1.07)	2.63 (1.15)	2.47 (1.07)	2.47 (1.07)	2.63 (1.15)	2.63
	50,000円～60,000円	198	M (S.D.)	2.88 (1.04)	2.51 (1.22)	2.45 (1.40)	2.99 (1.17)	2.34 (1.10)	2.58 (1.05)	2.34 (1.10)	2.34 (1.10)	2.58 (1.05)	2.58
取	60,000円～70,000円	106	M (S.D.)	2.92 (1.08)	2.57 (1.28)	2.32 (1.32)	2.93 (1.20)	2.41 (1.07)	2.62 (1.08)	2.41 (1.07)	2.41 (1.07)	2.62 (1.08)	2.62
	70,000円～80,000円	81	M (S.D.)	2.83 (1.06)	2.48 (1.26)	2.49 (1.30)	3.28 (1.13)	2.26 (0.96)	2.46 (1.02)	2.26 (0.96)	2.26 (0.96)	2.46 (1.02)	2.46
生	80,000円以上	92	M (S.D.)	2.85 (1.16)	2.68 (1.35)	2.04 (1.17)	2.90 (1.21)	2.17 (1.10)	2.43 (1.05)	2.43 (1.05)	2.17 (1.10)	2.43 (1.05)	2.43
	活	186	M (S.D.)	2.92 (0.95)	2.49 (1.22)	2.53 (1.36)	3.11 (1.15)	2.43 (1.02)	2.56 (1.12)	2.43 (1.02)	2.43 (1.02)	2.56 (1.12)	2.56
活	目標	196	M (S.D.)	2.77 (0.99)	2.39 (1.20)	2.24 (1.25)	2.83 (1.07)	2.31 (1.01)	2.28 (1.10)	2.28 (1.10)	2.31 (1.01)	2.28 (1.10)	2.28
	目標	118	M (S.D.)	2.93 (1.14)	2.88 (1.25)	2.36 (1.35)	2.80 (1.12)	2.27 (1.10)	2.58 (1.15)	2.27 (1.10)	2.27 (1.10)	2.58 (1.15)	2.58
小	世の中には金太く短い生活	77	M (S.D.)	2.86 (1.11)	2.73 (1.30)	2.57 (1.37)	3.31 (1.24)	2.61 (1.33)	2.49 (1.20)	2.49 (1.20)	2.61 (1.33)	2.49 (1.20)	2.49
	そ の 他	134	M (S.D.)	2.99 (1.10)	2.82 (1.29)	2.17 (1.23)	2.88 (1.14)	2.29 (1.04)	2.96 (0.72)	2.29 (0.72)	2.29 (1.04)	2.96 (0.72)	2.96
少	10,000円以下	151	M (S.D.)	2.87 (1.06)	2.47 (1.27)	2.30 (1.31)	2.94 (1.10)	2.80 (0.99)	2.43 (1.12)	2.80 (0.99)	2.80 (0.99)	2.43 (1.12)	2.43
	10,000円～15,000円	163	M (S.D.)	2.82 (1.08)	2.56 (1.20)	2.36 (1.25)	2.82 (1.13)	2.81 (1.07)	2.41 (1.00)	2.41 (1.00)	2.81 (1.07)	2.41 (1.00)	2.41
か	15,000円～20,000円	111	M (S.D.)	3.00 (1.03)	2.32 (1.20)	2.50 (1.34)	2.96 (1.11)	2.50 (1.16)	2.65 (1.11)	2.50 (1.16)	2.50 (1.16)	2.65 (1.11)	2.65
	20,000円～30,000円	175	M (S.D.)	2.85 (1.00)	2.55 (1.20)	2.29 (1.31)	3.08 (1.16)	2.34 (1.04)	2.69 (1.10)	2.34 (1.10)	2.34 (1.04)	2.69 (1.10)	2.69
い	30,000円以上	111	M (S.D.)	2.96 (1.11)	2.77 (1.40)	2.41 (1.39)	3.01 (1.23)	2.41 (1.14)	2.63 (1.10)	2.63 (1.10)	2.41 (1.14)	2.63 (1.10)	2.63

勤労青年の生活意識について

附表3 日常生活総合満足度および生活環境総合満足度 — 属性別平均値 —

		N		日常生活	生活環境
全 体		711	M (S.D.)	14.87 (4.34)	13.10 (3.60)
性 別	男 子	412	M (S.D.)	14.86 (4.36)	13.09 (3.68)
	女 子	299	M (S.D.)	14.88 (4.31)	13.11 (3.48)
職 業	作業・運輸	246	M (S.D.)	15.19 (4.41)	13.00 (3.50)
	販売・サービス	140	M (S.D.)	14.58 (3.91)	12.76 (3.59)
業 务	事 務	182	M (S.D.)	15.60 (4.42)	13.88 (3.48)
	そ の 他	143	M (S.D.)	13.66 (4.25)	13.24 (3.85)
月 収	50,000円以下	239	M (S.D.)	15.63 (4.71)	13.13 (3.45)
	50,000円 ～60,000円	193	M (S.D.)	15.03 (4.10)	13.18 (3.78)
収 益	60,000円 ～70,000円	106	M (S.D.)	14.50 (3.78)	13.15 (3.35)
	70,000円 ～80,000円	81	M (S.D.)	13.93 (3.90)	13.35 (3.61)
生 活 目 標	80,000円以上	92	M (S.D.)	13.80 (4.37)	12.60 (3.88)
	趣味にあつたらし	186	M (S.D.)	15.30 (4.29)	13.48 (3.53)
生 活 目 標	こつこつ働く	196	M (S.D.)	14.45 (4.57)	12.54 (3.21)
	まじめに、社会のために	118	M (S.D.)	14.55 (4.16)	12.75 (3.59)
生 活 目 標	世の中は金、太く短い生活	77	M (S.D.)	15.35 (4.43)	14.08 (3.95)
	そ の 他	134	M (S.D.)	14.87 (4.07)	13.15 (3.82)
小 づ か い	10,000円以下	151	M (S.D.)	14.54 (4.38)	12.88 (3.48)
	10,000円 ～15,000円	163	M (S.D.)	14.67 (4.44)	12.87 (3.40)
	15,000円 ～20,000円	111	M (S.D.)	15.26 (4.33)	13.27 (3.64)
	20,000円 ～30,000円	175	M (S.D.)	14.79 (4.19)	13.11 (3.44)
	30,000円以上	111	M (S.D.)	15.32 (4.39)	13.55 (4.12)

附表4 余暇行動の

全 体	
休 くつろぎ	す る
	し な い
	$\chi^2 -$
ぶらつき ショッピング	す る
	し な い
	$\chi^2 -$
社 づきあい	す る
	し な い
	$\chi^2 -$
身のまわりの 整 理	す る
	し な い
	$\chi^2 -$
読書・勉強	す る
	し な い
	$\chi^2 -$
ス ポーツ 趣味・鑑賞	す る
	し な い
	$\chi^2 -$

注) 平日と休日に分けて複数回答
らにも回答していない場合は、

原 著

内容と小づかいの使いみちの内容との関連について

N	おしゃれ用品		飲食・嗜好品		スポーツ・趣味		書籍・授業料		娯楽	
	使 う	使 わ ない								
711 (100.0)	380 (46.4)	381 (53.6)	527 (74.1)	184 (25.9)	350 (49.2)	361 (50.8)	268 (37.7)	448 (62.3)	188 (26.4)	523 (73.6)
603 (100.0)	279 (46.3)	324 (53.7)	456 (75.6)	147 (24.4)	308 (50.2)	300 (49.8)	228 (37.8)	375 (62.2)	156 (25.9)	447 (74.1)
108 (100.0)	51 (47.2)	57 (52.8)	71 (65.7)	37 (34.3)	47 (43.5)	61 (56.5)	40 (37.0)	68 (68.0)	32 (29.6)	76 (70.4)
検定	*									
330 (100.0)	200 (60.6)	130 (39.4)	259 (78.5)	71 (21.5)	151 (45.8)	179 (54.2)	142 (48.0)	188 (57.0)	56 (17.0)	274 (83.0)
381 (100.0)	130 (34.1)	251 (65.9)	268 (70.3)	113 (29.7)	199 (52.2)	182 (47.8)	126 (33.1)	255 (66.9)	132 (34.6)	249 (65.4)
検定	***		*		△		**		***	
291 (100.0)	142 (48.8)	149 (51.2)	229 (78.7)	62 (21.3)	154 (52.9)	187 (47.1)	111 (38.1)	180 (61.9)	77 (26.5)	214 (73.5)
420 (100.0)	188 (44.8)	232 (55.2)	298 (71.0)	122 (29.0)	196 (46.7)	224 (58.3)	157 (37.4)	268 (62.6)	111 (26.4)	309 (73.6)
検定	*									
257 (100.0)	179 (69.6)	78 (30.4)	169 (65.8)	88 (34.2)	117 (45.5)	140 (54.5)	134 (52.1)	123 (47.9)	28 (8.9)	234 (91.1)
454 (100.0)	151 (33.8)	308 (66.7)	358 (78.9)	96 (21.1)	238 (51.3)	221 (48.7)	184 (29.5)	320 (70.5)	165 (36.3)	289 (63.7)
検定	***		***				***		***	
114 (100.0)	45 (39.5)	69 (60.5)	78 (68.4)	36 (31.6)	59 (51.8)	55 (48.2)	78 (68.4)	36 (31.6)	17 (14.9)	97 (85.1)
597 (100.0)	285 (47.7)	812 (52.3)	449 (75.2)	148 (24.8)	291 (48.7)	306 (51.8)	190 (31.8)	407 (68.2)	171 (28.6)	426 (71.4)
検定							***		**	
428 (100.0)	200 (46.7)	228 (53.3)	308 (70.8)	125 (29.2)	257 (60.0)	171 (40.0)	187 (43.7)	241 (56.3)	97 (22.7)	381 (77.3)
288 (100.0)	130 (45.9)	153 (54.1)	224 (79.2)	59 (20.8)	98 (32.9)	190 (67.1)	81 (28.6)	202 (71.4)	91 (32.2)	192 (67.8)
検定	*		***		***		***		**	

方式により調査した余暇行動を次のように一本化した。どちらか一方あるいは両方とも回答している場合には、その行動を「する」と考え、どちらか一方を「しない」と考えた。

勤労青年の生活意識について

附表5 余暇行動の内容別にみた教育委員会行事への参加希望者数

		N	参 加 し た い	参 加 し く な い
全	体	711 (100.0)	321 (45.1)	390 (54.9)
休 く つ ろ ぎ	する	603 (100.0)	270 (44.8)	333 (55.2)
	しない	108 (100.0)	51 (47.2)	57 (52.8)
	χ^2 - 検定			
ぶ ら つ き ショッピング	する	330 (100.0)	154 (46.7)	176 (53.3)
	しない	381 (100.0)	167 (43.8)	214 (56.2)
	χ^2 - 検定			
社 交 つ き あ い	する	291 (100.0)	141 (48.5)	150 (51.5)
	しない	420 (100.0)	180 (42.9)	240 (57.1)
	χ^2 - 検定			
身 の ま わ り の 整 理	する	257 (100.0)	122 (47.5)	135 (52.5)
	しない	454 (100.0)	199 (43.8)	255 (56.2)
	χ^2 - 検定			
読 勉 書 強	する	114 (100.0)	71 (62.3)	43 (37.7)
	しない	597 (100.0)	250 (41.9)	347 (58.1)
	χ^2 - 検定			***
ス ポ ー ツ 趣 味 ・ 鑑 賞	する	428 (100.0)	216 (50.5)	212 (49.5)
	しない	283 (100.0)	105 (37.1)	178 (62.9)
	χ^2 - 検定			***

附表6 小づかいの使いみちの内容別にみた教育委員会行事への参加希望者数

		N	参 加 し た い	参 加 し く な い
全	体	711 (100.0)	321 (45.1)	390 (54.9)
お しゃ れ 用 品	使 う	330 (100.0)	133 (40.8)	197 (59.7)
	使 わ な い	381 (100.0)	188 (49.3)	193 (50.7)
	χ^2 - 検定		*	
飲 食 好 好 品	使 う	527 (100.0)	239 (45.4)	288 (54.6)
	使 わ な い	184 (100.0)	82 (44.6)	102 (55.4)
	χ^2 - 検定			
ス ポ ー ツ 趣 味 ・ 鑑 賞	使 う	350 (100.0)	171 (48.9)	179 (51.1)
	使 わ な い	361 (100.0)	150 (41.6)	211 (58.4)
	χ^2 - 検定		△	
書 籍 教 科	使 う	268 (100.0)	147 (54.9)	121 (45.1)
	使 わ な い	443 (100.0)	174 (39.3)	269 (60.7)
	χ^2 - 検定		***	
娛 楽	使 う	188 (100.0)	88 (46.8)	100 (53.2)
	使 わ な い	523 (100.0)	283 (44.6)	290 (55.4)
	χ^2 - 検定			

附表7 生活目標別

		N
全	体	711 (100.0)
趣味にあつたらし		186 (100.0)
こつこつ働く		196 (100.0)
まじめに、社会のために働く		118 (100.0)
世の中は金、太く短く生活する		77 (100.0)
その他の		134 (100.0)
χ^2 - 検定		

附表8 生活目標別

		N
全	体	711 (100.0)
趣味にあつたらし		186 (100.0)
こつこつ働く		196 (100.0)
まじめに、社会のために働く		118 (100.0)
世の中は金、太く短く生活する		77 (100.0)
その他の		134 (100.0)
χ^2 - 検定		

附表9 生活目標別にみた教育委員会行事への参加希望者の割合

		N	参 加 し た い	参 加 し く な い
全	体	711 (100.0)	321 (45.1)	390 (54.9)
趣味にあつたらし		186 (100.0)	85 (45.7)	101 (54.3)
こつこつ働く		196 (100.0)	81 (41.3)	115 (58.7)
まじめに、社会のために		118 (100.0)	69 (58.5)	49 (41.5)
世の中は金、太く短く生活する		77 (100.0)	26 (33.8)	51 (66.2)
その他の		134 (100.0)	60 (44.8)	74 (55.2)
χ^2 - 検定			**	

原 著

にみた余暇行動の内容

休息・くつろぎ		ぶらつき・ショッピング		社交・つきあい		身のまわりの整理		読書・勉強		スポーツ・趣味	
する	しない										
603 (84.8)	108 (15.2)	330 (46.4)	881 (53.6)	291 (40.9)	420 (59.1)	257 (36.1)	454 (63.9)	114 (16.0)	597 (84.0)	428 (60.2)	283 (39.8)
153 (82.3)	33 (17.7)	96 (51.6)	90 (48.4)	83 (44.6)	103 (55.4)	78 (41.9)	108 (58.1)	39 (21.0)	147 (79.0)	119 (64.0)	67 (36.0)
170 (86.7)	26 (13.3)	99 (50.5)	97 (49.5)	65 (38.2)	131 (66.8)	77 (39.3)	119 (60.7)	25 (12.8)	171 (87.2)	103 (52.6)	98 (47.4)
104 (88.1)	14 (11.9)	48 (40.7)	70 (59.3)	43 (36.4)	75 (63.6)	39 (33.1)	79 (66.9)	29 (24.6)	89 (75.4)	74 (62.7)	44 (37.3)
63 (81.8)	14 (18.2)	30 (39.0)	47 (61.0)	40 (51.9)	37 (48.1)	18 (23.4)	59 (76.6)	8 (10.4)	69 (89.6)	46 (59.7)	31 (40.3)
113 (84.8)	21 (15.7)	57 (42.5)	77 (57.5)	60 (44.8)	74 (55.2)	45 (33.6)	89 (66.4)	18 (9.7)	121 (90.8)	86 (64.2)	48 (35.8)
				*	*			**			

にみた小づかいの使いみちの内容

おしゃれ用品		飲食・嗜好品		スポーツ・趣味		書籍・授業料		娯楽	
使う	使わない								
330 (46.4)	381 (53.6)	527 (74.1)	184 (25.9)	350 (49.2)	861 (50.8)	268 (37.7)	448 (62.8)	188 (26.4)	528 (73.6)
99 (58.2)	87 (46.8)	127 (68.3)	59 (31.7)	90 (48.4)	96 (51.6)	84 (45.2)	102 (54.8)	89 (21.0)	147 (79.0)
89 (45.4)	107 (54.6)	158 (80.6)	38 (19.4)	87 (44.4)	109 (55.6)	59 (30.1)	137 (69.9)	53 (27.0)	148 (73.0)
52 (44.1)	66 (55.9)	85 (72.0)	83 (28.0)	59 (50.0)	59 (50.0)	59 (50.0)	59 (50.0)	34 (28.8)	84 (71.2)
30 (39.0)	47 (61.0)	60 (77.9)	17 (22.1)	42 (54.5)	35 (45.5)	18 (23.4)	59 (76.6)	29 (37.7)	48 (62.3)
60 (44.8)	74 (55.2)	97 (72.4)	87 (27.6)	72 (58.7)	62 (46.8)	48 (35.8)	86 (64.2)	83 (24.6)	101 (75.4)
		△				***		△	

付表10 数量化理論第Ⅱ類・第Ⅲ類による分析のためにとりあげた属性項目とカテゴリー数

項目 内 容	カテゴリー数	備考
性 別	2	F 1
年 令	3	F 1
婚 姻	2	F 1
居 住 形 態	2	F 1
一宮市内での居住年数	4	F 1
現在の職場での勤続年数	4	F 2
職 業	4	F 2
産 業	5	F 2
職 場 の 規 模	3	F 1
勤務地と通勤時間	5	F 1

項目 内 容	カテゴリー数	備考
残 業 の 頻 度	4	F 3
週休2日制の実態	4	F 3
労 働 時 間	4	F 3
転 職 経 験	2	
睡 眠 時 間	3	F 3
1日の平均自由時間	5	F 3
夜の平均自由時間	4	F 3
1ヶ月の平均収入	5	F 2
1ヶ月の平均小づかい額	5	F 2

勤労青年の生活意識について

附表11 数量化理論第III類による分析の結果(相関係数とカテゴリーウェイト)

項目およびカテゴリーの内容		記号	第1根 $f=0.284$	第2根 $f=0.263$	第3根 $f=0.227$	第4根 $f=0.221$	第5根 $f=0.212$
悩みに付いて	1.仕事・就職・勉強などありなし	○	-0.7649	0.9861	0.4670	-2.2977	-1.0060
	2.家族のことありなし	●	0.6260	-0.8070	-0.3822	1.8805	0.8233
	3.友人・仲間のことありなし	○	-0.5162	-0.2237	-0.6481	0.0711	-4.1366
	4.異性・結婚のことありなし	●	0.1007	0.0436	0.1264	-0.0189	0.8065
	5.お金のことありなし	○	-1.4603	-0.2852	2.4859	0.3769	-1.4574
	6.住宅のことありなし	●	0.1799	0.0351	-0.3002	-0.0464	0.1796
	7.性格・健康のことありなし	○	-1.8829	0.1767	2.1984	0.8647	-0.1515
悩みの相談相手	8.両親あるいは妻・夫するしない	●	0.6055	-0.0568	-0.7069	-0.2780	0.0487
	9.きょうだいするしない	○	0.6275	1.1067	2.6037	-0.1728	1.7398
	10.近所の友だちするしない	●	-0.1580	-0.2786	-0.6555	0.0485	-0.4380
	11.職場の先輩・同僚するしない	○	1.8052	2.0916	-0.7354	0.9515	0.5850
	12.おしゃれ用品使う使わない	●	-0.2683	-0.3109	0.1093	-0.1414	-0.0870
	13.飲食・嗜好品使う使わない	○	-1.3062	-0.0265	-1.3465	0.4385	-1.0010
	14.スポーツ・趣味使う使わない	●	0.5006	0.0101	0.5161	-0.1662	0.3836
小づかいいの使いみち	15.書籍・授業料使う使わない	○	0.1796	-0.6644	-1.5519	1.3573	0.0142
	16.娯楽使う使わない	●	-0.1333	0.4934	1.1525	-1.0080	-0.0106
	17.不時の支出はいいいえ	○	-0.9893	-1.2275	-0.9520	-0.6798	-2.8179
	18.結婚資金はいいいえ	●	0.2172	0.2695	0.2090	0.1492	0.6187
	19.将来の購入資金はいいいえ	○	-2.1002	1.5376	2.1198	0.5361	-1.4427
	20.将来的な貯蓄はいいいえ	●	0.6050	-0.4429	-0.6106	-0.1544	0.4155
	21.就職活動はいいいえ	○	-0.9074	0.0167	1.1519	-0.0662	1.6216
貯蓄の目的	22.就職活動するしない	●	0.7218	-0.0133	-0.9163	0.0527	-1.2899
	23.就職活動するしない	○	-1.7945	-1.8047	0.9348	-0.0485	-0.2056
	24.就職活動するしない	●	1.5543	1.5631	-0.8097	0.0420	0.1780
	25.就職活動するしない	○	0.4967	0.1146	0.7556	0.3558	-1.1222
	26.就職活動するしない	●	-1.4227	-0.8281	-2.1642	-1.0191	3.2140
	27.就職活動するしない	○	-0.2373	1.4591	0.1687	0.0053	2.2614
	28.就職活動するしない	●	0.2301	-1.4147	-0.1636	-0.0051	-2.1925
就職活動の目的	29.就職活動するしない	○	-2.3786	-0.0066	-2.1858	-0.4549	0.2165
	30.就職活動するしない	●	1.4390	0.0040	1.3223	0.2752	-0.1810
	31.就職活動するしない	○	3.1698	1.7120	0.5743	0.7290	-2.0684
	32.就職活動するしない	●	-1.1394	-0.6154	-0.2064	-0.2621	0.7435
	33.就職活動するしない	○	-0.0434	0.7768	-0.4792	-0.6528	-0.4791
	34.就職活動するしない	●	0.0277	-0.4958	0.8059	0.4167	0.3058
	35.就職活動するしない	○	-1.6389	-0.5244	0.7995	0.7383	0.3731
就職活動の目的	36.就職活動するしない	●	2.0840	0.6669	-1.0167	-0.9388	-0.4745
	37.就職活動するしない	○	0.1222	1.3615	-0.5948	0.1896	0.0597
就職活動の目的	38.就職活動するしない	●	-0.1571	-1.7512	0.7650	-0.1796	-0.0769

附表12 教育委員会行事への参加意欲のタイプ別にみた参加目的の内訳

参加目的		職業的技術	人生問題	社会	文学	スポーツ	趣味	家政	自然科学
参加者全体	321 (100.0)	107 (33.8)	59 (18.4)	32 (10.0)	32 (10.0)	198 (61.7)	80 (24.9)	79 (24.6)	21 (6.5)
タイプI参加者	86 (100.0)	29 (33.7)	14 (16.3)	8 (9.8)	12 (14.0)	58 (67.4)	24 (27.9)	23 (26.7)	2 (2.8)
タイプIII参加者	235 (100.0)	78 (33.2)	45 (19.1)	24 (10.2)	20 (8.5)	140 (59.6)	56 (23.8)	56 (23.8)	19 (8.1)

原 著

項目およびカテゴリーの内容		記号	第1根 $f=0.284$	第2根 $f=0.263$	第3根 $f=0.227$	第4根 $f=0.221$	第5根 $f=0.212$
余暇行動動	20.休息・くつろぎ するしない	○	0.0729	-0.1167	-0.3733	0.0116	-0.3230
	21.ふらつき・ショッピング するしない	●	-0.4070	0.6514	2.0841	-0.0647	1.8032
	22.スポーツ・趣味 するしない	○	-1.5576	-1.1137	1.2686	0.3343	-0.5958
	23.社交・つきあい するしない	●	1.8491	0.9646	-1.0988	-0.2895	0.5160
	24.読書・勉強 するしない	○	-0.9662	1.2549	-0.2167	-0.0611	1.3755
	25.身のまわりの整理 するしない	●	1.4612	-1.8978	0.3278	0.0925	-2.0803
		○	-0.5824	0.8611	2.3826	1.4781	0.1820
生活満足と生活目標	26.生活目標 ①趣味にあったくらし ②こつこつ働く ③まじめに働く ④世の中は金…… ⑤その他	○	-1.3318	0.8037	0.2311	-1.3382	0.4592
		●	0.6855	-1.6961	-0.2947	0.7722	-1.7450
		×	-0.6234	1.1008	-2.8215	0.8822	0.1320
		□	2.0406	1.1387	3.7997	-2.2535	0.9630
		△	0.2215	0.4382	0.4103	1.2460	1.2469
		○	0.3078	-1.2975	-1.3134	3.5230	0.4214
		●	0.2552	0.4590	0.3558	0.0490	1.5247
社会教育	27.日常生活・職業 ①よい ②生活についての満足度 ①どちらでもない ②わるい	×	-0.5850	0.7508	0.8816	-3.4859	-2.1141
	28.生活環境についての満足度 ①よい ②どちらでもない ③わるい	○	0.0543	-0.7597	-0.5021	3.2390	-0.1466
		●	0.3005	-0.4751	-0.3611	-0.8541	0.7344
		×	-0.3880	1.3631	0.9523	-2.6727	-0.6374
	29.文化施設の要求 ありなし	○	-1.0925	1.7786	-0.0067	0.8002	-1.1287
	30.スポーツ施設の要求 ありなし	●	1.3050	-2.1245	0.0081	-0.9558	1.3482
	31.教育委員会行事への参加経験 ありなし	○	-0.7939	1.8188	0.2438	1.2622	-1.3661
教育	32.教育委員会行事への参加希望 ありなし	●	0.8566	-1.9624	-0.2629	-1.3619	1.4739
		○	-1.4269	2.0140	-0.2826	1.5553	-0.4898
		●	0.8253	-0.4591	0.0644	-0.3546	0.1117
		○	-0.9554	1.3873	-1.1226	1.4936	-0.2095
		●	0.7864	-1.1418	0.9240	-1.2294	0.1724

附表13 教育委員会行事への参加意欲のタイプ別にみた参加拒否理由の内訳

参加拒否理由		雇用主がきらう	学習はきらい	仕事の都合	はかで学習する	仲間がひやかす	生活に役立たぬ	やることがわからない	その他の理由	とくに理由なし
非参加者全体	889 (100.0)	7 (1.8)	31 (8.0)	183 (47.0)	15 (3.9)	2 (0.5)	29 (7.5)	45 (11.6)	31 (8.0)	116 (29.8)
タイプII非参加者	46 (100.0)	0 (-)	3 (6.5)	22 (47.8)	5 (10.9)	0 (-)	1 (2.2)	0 (-)	6 (13.0)	12 (26.1)
タイプN非参加者	348 (100.0)	7 (2.0)	28 (8.2)	161 (46.9)	10 (2.9)	2 (0.6)	28 (8.2)	45 (13.1)	25 (7.8)	104 (30.3)

(1978年7月31日受稿)

勤労青年の生活意識について

一宮市青年実態調査票

調査員は面接する前に本人であることを確認してください。

番号	面接調査員氏名		
住所	登録者氏名		
姓 名	男	性 別	回収日
昭和 年 月 日 生	年 生	月 生	日 生
訪問予約日時 訪問日時 応 用 者 (書き込み用)			
1			
2			
3			
備註として3回まで切る。この時点で回答をうる見込みが大と判断するなら、さらにつけさせてください。			
4			
5			

調査のおねがい

一宮市教育委員会では、これまで青年を対象にしたいろいろな事業を行ってきました。これから、さらに一層充実したサービスをいたすべく心がけています。そのため、こんど一宮市在住の青年のかたかたに、生活の実験やご意向をうかがうことになりました。

このような調査は、9年前に一度行った今何が二度目であります。調査の結果はすべて統計として整理し個人的事情をもらすようなことは絶対ありませんから、どうかあなたのままでお答えくださいよおねがいします。

なお、面接にうかがった調査員は私どもが委嘱した者であって、身分は明記(青年実態調査員)を掲げさせていただきます。

昭和48年10月

一宮市教育委員会
(連絡先:一宮市青年の家 電話 73-2400)
東海社会教育研究会
(事務局:名古屋大学教育学部内)

- 性別は (1) 男 (2) 女
- 生年月日は 昭和 年 月 日 生
- 結婚していますか。 (1) している (2) していない
- あなたが最後に卒業した学校は次のうちどれですか。もしもあなたが在学中ならばどれですか。
(それぞれの通信教育課程も含む) いずれか1つに○印をつけてください。

 - (1) 中学校 (5) 全日制高校在学中
 - (2) 高等学校 (6) 定時制高校在学中
 - (3) 加入 (高専を含む) (7) 短大・部または単科在学中
 - (4) 大学 (大学院を含む) (8) 長期大学 (大学院を含む) 在学中
 - (9) 夜間大学 在学中

- あなたが今住んでいるところはどこですか。
(1) 自宅 (2) 勤め先の寮 (3) 住み込み (4) 上宿
(5) その他 ()
- あなたは一宮市の生まれですか。
(1) 一宮市の生まれである。
(2) 一宮市以外の生まれである。→ A 生まれたのは 郡・道・府・県
B 一宮市にきてから 年 ケ月になる
C 一宮市にきた理由は (主なもの2つ以内に○印をつけてください)

1 結婚	2 迂回	3 結婚
4 職業の転勤	5 両親の転勤以外の家の都合	6 その他 ()

※ それでは、これから質問や職場についてうかがいます。

- あなたは職業をおもですか。(内職・家事手伝い・学生アルバイトは職業からのぞく)
(1) もっている (2) もっていない → 30へとんでください
- あなたの職業は次のうちどれですか。
(1) 作業従事者(工場などの) (6) 専門的技術的職業従事者(教師、医師、技師など)
(2) 運転従事者(運転手、運転助手、車掌など) (7) 職人(大工、細木工、板前など)
(3) 販売従事者(店員、販売外交、配達、集金など) (8) 農業従事者(農業、園芸、牧畜を含む)
(4) サービス業務従事者(理・美容、飲食店、ガードマンなど) (9) 経営・管理的職業従事者(個人営業、工場、会社、役所などの)
(5) 事務従事者
(10) その他 ()

9. あなたの職場の場所はどこですか。

- (1) 一宮市 (2) 尾西市 (3) 柳沢市 (4) 名古屋市 (5) その他()

10. あなたは現在の職場に入りて何年になりますか。

() 年 () ヶ月

11. あなたの職場の産業は次のうちどれですか。

- (1) 製造業 (製造) → S (1) 織維製品 (2) その他
(2) 建設業
(3) 卸・小売業 (主要取扱は) → S (1) 織維製品 (2) その他
(4) 運輸・通信・公益事業
(5) サービス業
(6) 金融・保険・不動産業
(7) 公務
(8) 農業
(9) その他の産業

12. あなたの職場の常雇従業員の数は次のうちどれですか。

- (1) 4人以下 (2) 5~9人 (3) 10~29人 (4) 30~49人 (5) 50~99人
(6) 100~299人 (7) 300~499人 (8) 500~999人 (9) 1,000人以上

13. あなたの就業形態は次のうちどれですか。

- (1) 自営主
(2) 家業従事者

- (3) 一般雇用者 (その場合) → S [1 常雇
2 パート] 30へとんでください

14. あなたの職場は交替制ですか。

- (1) 交替制でない (その場合) → S [1 始業時間が一定
2 時差出勤制]
(2) 交替制である (その場合) → S [1 二交替制
2 三交替制
3 毎日24時間交替制]

*それでは、これから仕事の時間や休日・余暇時間についてうかがいます。

15. あなたの仕事日の生活時間についておたずねします。

A 一日の平均勤務時間(休憩も含めて)は何時間ですか。 (時間 分) ■

B あなたは職場で就業をすることありますか。

- (1) ない

- (2) ある (この場合) → S [1 1日 2 週の半分くらい 3 とくど)
(1) 1日の平均勤務時間は (時間 分) ■

C 一日の平均通勤時間(往復)は何時間ですか。 (時間 分) ■

D 一日の平均在学時間は何時間ですか。 (時間 分) ■

E 一日の平均通学時間(往復)は何時間ですか。 (時間 分) ■

F 一日の平均離職時間は何時間ですか。 (時間 分) ■

G 一日のうちあなたの自由になる時間はどれくらいありますか。(仕事中の休憩時間や学校にいる時間、あるいは運動・通学・食事・睡眠・入浴の時間などは自由になる時間からのぞく)

0 年 前	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年	10 年	11 年	12 年	13 年	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年	30 年	31 年	32 年	33 年	34 年	35 年	36 年	37 年	38 年	39 年	40 年	41 年	42 年	43 年	44 年	45 年	46 年	47 年	48 年	49 年	50 年	51 年	52 年	53 年	54 年	55 年	56 年	57 年	58 年	59 年	60 年	61 年	62 年	63 年	64 年	65 年	66 年	67 年	68 年	69 年	70 年	71 年	72 年	73 年	74 年	75 年	76 年	77 年	78 年	79 年	80 年	81 年	82 年	83 年	84 年	85 年	86 年	87 年	88 年	89 年	90 年	91 年	92 年	93 年	94 年	95 年	96 年	97 年	98 年	99 年	100 年	101 年	102 年	103 年	104 年	105 年	106 年	107 年	108 年	109 年	110 年	111 年	112 年	113 年	114 年	115 年	116 年	117 年	118 年	119 年	120 年	121 年	122 年	123 年	124 年	125 年	126 年	127 年	128 年	129 年	130 年	131 年	132 年	133 年	134 年	135 年	136 年	137 年	138 年	139 年	140 年	141 年	142 年	143 年	144 年	145 年	146 年	147 年	148 年	149 年	150 年	151 年	152 年	153 年	154 年	155 年	156 年	157 年	158 年	159 年	160 年	161 年	162 年	163 年	164 年	165 年	166 年	167 年	168 年	169 年	170 年	171 年	172 年	173 年	174 年	175 年	176 年	177 年	178 年	179 年	180 年	181 年	182 年	183 年	184 年	185 年	186 年	187 年	188 年	189 年	190 年	191 年	192 年	193 年	194 年	195 年	196 年	197 年	198 年	199 年	200 年	201 年	202 年	203 年	204 年	205 年	206 年	207 年	208 年	209 年	210 年	211 年	212 年	213 年	214 年	215 年	216 年	217 年	218 年	219 年	220 年	221 年	222 年	223 年	224 年	225 年	226 年	227 年	228 年	229 年	230 年	231 年	232 年	233 年	234 年	235 年	236 年	237 年	238 年	239 年	240 年	241 年	242 年	243 年	244 年	245 年	246 年	247 年	248 年	249 年	250 年	251 年	252 年	253 年	254 年	255 年	256 年	257 年	258 年	259 年	260 年	261 年	262 年	263 年	264 年	265 年	266 年	267 年	268 年	269 年	270 年	271 年	272 年	273 年	274 年	275 年	276 年	277 年	278 年	279 年	280 年	281 年	282 年	283 年	284 年	285 年	286 年	287 年	288 年	289 年	290 年	291 年	292 年	293 年	294 年	295 年	296 年	297 年	298 年	299 年	300 年	301 年	302 年	303 年	304 年	305 年	306 年	307 年	308 年	309 年	310 年	311 年	312 年	313 年	314 年	315 年	316 年	317 年	318 年	319 年	320 年	321 年	322 年	323 年	324 年	325 年	326 年	327 年	328 年	329 年	330 年	331 年	332 年	333 年	334 年	335 年	336 年	337 年	338 年	339 年	340 年	341 年	342 年	343 年	344 年	345 年	346 年	347 年	348 年	349 年	350 年	351 年	352 年	353 年	354 年	355 年	356 年	357 年	358 年	359 年	360 年	361 年	362 年	363 年	364 年	365 年	366 年	367 年	368 年	369 年	370 年	371 年	372 年	373 年	374 年	375 年	376 年	377 年	378 年	379 年	380 年	381 年	382 年	383 年	384 年	385 年	386 年	387 年	388 年	389 年	390 年	391 年	392 年	393 年	394 年	395 年	396 年	397 年	398 年	399 年	400 年	401 年	402 年	403 年	404 年	405 年	406 年	407 年	408 年	409 年	410 年	411 年	412 年	413 年	414 年	415 年	416 年	417 年	418 年	419 年	420 年	421 年	422 年	423 年	424 年	425 年	426 年	427 年	428 年	429 年	430 年	431 年	432 年	433 年	434 年	435 年	436 年	437 年	438 年	439 年	440 年	441 年	442 年	443 年	444 年	445 年	446 年	447 年	448 年	449 年	450 年	451 年	452 年	453 年	454 年	455 年	456 年	457 年	458 年	459 年	460 年	461 年	462 年	463 年	464 年	465 年	466 年	467 年	468 年	469 年	470 年	471 年	472 年	473 年	474 年	475 年	476 年	477 年	478 年	479 年	480 年	481 年	482 年	483 年	484 年	485 年	486 年	487 年	488 年	489 年	490 年	491 年	492 年	493 年	494 年	495 年	496 年	497 年	498 年	499 年	500 年	501 年	502 年	503 年	504 年	505 年	506 年	507 年	508 年	509 年	510 年	511 年	512 年	513 年	514 年	515 年	516 年	517 年	518 年	519 年	520 年	521 年	522 年	523 年	524 年	525 年	526 年	527 年	528 年	529 年	530 年	531 年	532 年	533 年	534 年	535 年	536 年	537 年	538 年	539 年	540 年	541 年	542 年	543 年	544 年	545 年	546 年	547 年	548 年	549 年	550 年	551 年	552 年	553 年	554 年	555 年	556 年	557 年	558 年	559 年	560 年	561 年	562 年	563 年	564 年	565 年	566 年	567 年	568 年	569 年	570 年	571 年	572 年	573 年	574 年	575 年	576 年	577 年	578 年	579 年	580 年	581 年	582 年	583 年	584 年	585 年	586 年	587 年	588 年	589 年	590 年	591 年	592 年	593 年	594 年	595 年	596 年	597 年	598 年	599 年	600 年	601 年	602 年	603 年	604 年	605 年	606 年	607 年	608 年	609 年	610 年	611 年	612 年	613 年	614 年	615 年	616 年	617 年	618 年	619 年	620 年	621 年	622 年	623 年	624 年	625 年	626 年	627 年	628 年	629 年	630 年	631 年	632 年	633 年	634 年	635 年	636 年	637 年	638 年	639 年	640 年	641 年	642 年	643 年	644 年	645 年	646 年	647 年	648 年	649 年	650 年	651 年	652 年	653 年	654 年	655 年	656 年	657 年	658 年	659 年	660 年	661 年	662 年	663 年	664 年	665 年	666 年	667 年	668 年	669 年	670 年	671 年	672 年	673 年	674 年	675 年	676 年	677 年	678 年	679 年	680 年	681 年	682 年	683 年	684 年	685 年	686 年	687 年	688 年	689 年	690 年	691 年	692 年	693 年	694 年	695 年	696 年	697 年	698 年	699 年	700 年	701 年	702 年	703 年	704 年	705 年	706 年	707 年	708 年	709 年	710 年	711 年	712 年	713 年	714 年	715 年	716 年	717 年	718 年	719 年	720 年	721 年	722 年	723 年	724 年	725 年	726 年	727 年	728 年	729 年	730 年	731 年	732 年	733 年	734 年	735 年	736 年	737 年	738 年	739 年	740 年	741 年	742 年	743 年	744 年	745 年	746 年	747 年	748 年	749 年	750 年	751 年	752 年	753 年	754 年	755 年	756 年	757 年	758 年	759 年	760 年	761 年	762 年	763 年	764 年	765 年	766 年	767 年	768 年	769 年	770 年	771 年	772 年	773 年	774 年	775 年	776 年	777 年	778 年</

原

著

* それでは、これから仕事についてうかがいます。

1. あなたの現在の仕事についておたずねします。

A いまの仕事は、あなたの技能・性格にあってますか。

- (1) あってる (2) だいたい (3) あまり
 あってる あってない

B 職場の上級や同僚などの人間関係はよいでですか。

- (1) よい (2) まあよい方だ (3) あまりよくない (4) わるい (5) わからない

C 収入については満足していますか。

- (1) 満足 (2) だいたい満足 (3) やや不満 (4) 不満 (5) わからない

D 仕事の将来の見通しは明るいと思いますか。

- (1) 明るい (2) まあ明るい (3) あまり (4) 痞い (5) わからない
 方だ 明るくない

E あなたの仕事についていろいろうかがいましたが、一口にいっていかがですか。

- (1) 満足 (2) だいたい満足 (3) やや不満 (4) 不満 (5) わからない

2. あなたは、これからもいまの仕事を続けていくつもりですか。

(1) ゼッ航行いてみたい

(2) いまさら変るわけにもいかないので続けていく

(3) できれば早くやりたいと思っている

(4) 何といえないと

3. あなたは、いままで転職したことがありますか。

(1) ない

(2) ある

A その回数は()回 (最初の転職は回数に入れない)

B 一番最近の転職の理由は何ですか。次のなかでありまする主なものに○印をつけてください。(3つ以内)

- 1 学校を卒業したから
- 2 新しい資格をとったから
- 3 配置転換にされたから
- 4 転居したから
- 5 収入が低かったから
- 6 勤め先が倒産したから
- 7 職場の人間関係がわるかったから
- 8 運動時間ばかりすぎたから
- 9 仕事が技能・性格にあわなかったから
- 10 独立して事業をはじめるため
- 11 家業をつぐめ
- 12 何となくいやだったから
- 13 その他()

A

B

C

C その場合、条件はよくなりましたか。

- 1 大変 2 やや 3 実らない 4 やや
 よくなかった よくなかった わるくなかった わるくなかった

22. あなたの最初の就職は自分の意志できましたか。

(1) 自分だけきました

(2) 自分と他の人の意見できました — (その場合、他の人は)

(3) 他の人の意見だけきました — (その場合、自分をつけてください)

1 慢 2 さうない 3 我慢
4 ええ、友人 5 水入る
6 先生 7 職業安定局
8 その他()

* それでは、これからごくざいと貯蓄についてうかがいます。

23. あなたが個人的に自由に使えるこづかいは月におよそいくらですか。

(仕送り、衣食住の日常的必要経費、貯金はのぞく)

月平均 000円

24. あなたが毎月つづいているこづかいのなかで、1なもの(2つ)のうちのどれですか。

あてはまるものに○印をつけてください。(3つ以内)

- (1) おしゃれ用品 (7) 書籍、雑誌、新聞などの読物
(2) 飲料、軽食、お菓子、タバコ、酒など (8) 学校、塾、けいこごとの授業料
(3) 映画、演劇、音楽などの鑑賞 (9) クラブ、サークルの会費
(4) スポーツの観覧 (10) パチンコ、マージャン、競馬などの娯楽
(5) スポーツや趣味活動のための費用 (11) その他()
(6) 旅行、ハイキングなど(積立金を含む)

25. あなたは、どのような方法で貯蓄をしていますか。次のなかであてはまる主なものに○印をつけてください。(2つ以内)

(1) 郵便貯金、銀行預金 (2) 社内預金 (3) 株式

(4) 債券・信託 (5) 土地・家などの不動産

(6) 貯蓄はしていない

→ 27. へとんでください

26. あなたが貯蓄をする目的は何ですか。次のなかであてはまる主なものに○印をつけてください。(3つ以内)

- (1) 不時支出にそなえるため
(2) 結婚資金のため
(3) 土地、家屋の購入のため
(4) 予定した物品を購入するため
(5) 将来の事業資金のため
(6) レジャー、レクリエーションのため
(7) 学費のため
(8) 子ども教育のため
(9) 購、きょうだいなどの世話をするため
(10) その他()

* それでは、これから会員利用についてうかがいます。

27. ふだんの日の自由な時間あるいは休日には主にどんなことをしますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(a, b それぞれ3つ以内)

	a ふだんの日	b 休日
(1) 休息、くつろぎ(ごろね、テレビやラジオの視聴、新聞や雑誌をよむ) ()	()
(2) ぶらつき、ショッピング、飲食(盛り場や商店街をぶらつたり、ショッピングしたり、飲食したりする) ()	()
(3) 観観、鑑賞(スポーツ、音楽、映画、演劇、美術などをみてかける) ()	()
(4) 社交、つきあい(グループで話したり、友だちを訪ねて雑談したり、ディートしたりする) ()	()
(5) 読書、勉強(小説や教養書をよんだり、将来役にたつようなどの勉強を自分の家や青年の家、公民館、図書館などする) ()	()
(6) スポーツ活動(野球、卓球、ゴーリング、スケート、ダンス、釣り、サイクリングなどをやる) ()	()
(7) ドライブ(オートバイ、自動車を走らせて楽しむ) ()	()
(8) 勝負ごと、かけっこ(囲碁、将棋、マージャン、パチンコ、競馬、競輪など) ()	()
(9) 飲味、けいこごと(手芸、お茶、お花、園芸、コーラス、絵、工芸、アラモダ、万葉など) ()	()
(10) 身のまわりの整理(洗濯、家事の手伝い、手紙書きなど身のまわりのことをする) ()	()
(11) 小旅行(観光地、海水浴、登山、ハイキングなどでかける) ()	x

28. あなたは今年の7・8月に、まとまった有給休暇(連続5日以上)をとることができましたか。

(1) とれた	1. 5 日
S	2. 6 ~ 7 日
	3. 8 ~ 9 日
	4. 10 日 以上

(2) とれなかった → 30. へとんでください

29.-A その休暇をどのようにしてすごしましたか。次のうち主なもの1つに○印をつけてください。

- (1) 帰省をした (5) 登山・キャンプ・海水浴などスポーツをした
(2) 国内観光旅行をした (6) 地域や社会のための活動をした
(3) 海外観光旅行をした (7) 特にまとまったことはしなかった
(4) 創作・学習活動をした (8) その他()

29.-B それは誰といっしょでしたか。

- (1) 家族 (2) 自分ひとり (3) 友だち (4) 勤め先の団体
(5) 地域の団体 (6) 愛好者のサークル (7) その他の団体
(8) その他()

* それでは、これから一宮についての感想、悩みごと、考え方などについてうかがいます。

30. 一宮市に住んでいて次の点は、どのようにお感じですか。

A 「人の気持のあたたかさ」は

- (1) あなたかい (2) どちらかといえ (3) どちらかといばあなたかい (4) つめたい (5) わからない
 ぱあたかいい えぱたかとい えぱたかとい えぱつめたい

B 自然環境は

- (1) よい (2) どちらかといえ (3) どちらかといばよい (4) わるい (5) わからない
 ぱよい えぱよい えぱよい

C 日常生活の便利さは

- (1) 便利だ (2) どちらかといえ (3) どちらかといば便利だ (4) 不便だ (5) わからない
 え便利だ えぱちかとい えぱちかとい えは不便だ

D 文化水準や文化的環境は

- (1) よい (2) どちらかといえ (3) どちらかといばよい (4) わるい (5) わからない
 えよい えぱよい えぱよい

E 一宮の町への愛着は

- (1) すきだ (2) どちらかといえ (3) どちらかといばすきだ (4) きらいだ (5) わからない
 えすきだ えぱちかとい えぱちかとい えぱきらいだ

31. あなたは悩みや心配ごとがありますか。次のなかで、あてはまる主なものに○印をつけてください。(3つ以内)

- | |
|--------------------------------|
| (1) 勉強や進学のこと (9) 政治や社会のこと |
| (2) 就職のこと (10) 性格のこと |
| (3) 仕事・職場のこと (11) 健康のこと |
| (4) 家族のこと (12) 審査のこと |
| (5) 友人や仲間のこと (13) 学業のこと |
| (6) 性別や結婚のこと (14) 子どもの育児・教育のこと |
| (7) お金のこと (15) 憂みや心配ごとはない |
| (8) 住宅のこと (16) その他() |

勤労青年の生活意識について

3.2. あなたは悩みや心配ごとがあったときには、だれに相談しますか。

あてはまる主なものに○印をつけてください。(3つ以内)

- (1) 父 (2) 母 (3) きょうだい (4) 親または夫 (5) 祖父母や親せきの者
 (6) 学校の先生 (7) 近所や学校の友だち (8) 学校の先輩 (9) 職場の上級や先輩
 (10) 職場の同僚 (11) 団体やグループなどの仲間 (12) その他 ()
 (13) 相談したくても相手がない (14) 相談はしない A B C D

3.3. あなたは今後どのように生きていきたいと思いますか。一番がっかりするものに1つだけ○印をつけてください。

- (1) 金や名前などをええずに、自分の趣味にあったらしをしたい
 (2) こつこつはたらいて、自分のくらしだけは困らないようにしたい
 (3) まじめにはたらいて、他人から自分の存在を認められない
 (4) 自分ひとりのことを考えないで、社会全体のためにつくしたい
 (5) 万葉集の中は金だから、お金をもうけて楽なくらしがしたい
 (6) 大いにはたらき、大いに金を使って太く短く生活したい
 (7) 将来にあまり希望がもてない
 (8) その他の ()

3.4. あなたは今の生活中満足していますか。

- (1) 満足である (2) まあ満足である (3) やや不満である (4) 不満である

* それでは、これから会員に利用する施設や教育委員会でやっている行事についてうかがいます。

3.5. 青年が個人でも気軽に利用できる余暇活動施設のうち、今の一宮市に一番不足していると思われるものはどれですか。次のⒶとⒷのなかから○印をつけてください。(それぞれ2つ以内)

- A スポーツ・レクリエーション活動の施設としては
 (1) 野球場 (2) テニスコート (3) 陸上競技場 (4) 武道館・弓道場
 (5) 体育館 (卓球・バレーボール・バスケットボール・フィットネス場など)
 (6) プール (温水プールも含む) (7) 游泳施設 (合宿研修ができるところ)
 (8) 野外活動施設 (山の家、キャンプ場) (9) ナイター施設のある運動広場
 (10) その他の施設 () (X) 特にない・わからない

- B 文化・学習活動の施設として

- (1) 博物館 (2) 美術館 (3) 図書館 (4) 音楽・演劇の上演施設
 (5) 游泳施設 (合宿研修ができるところ) (6) 学習・読書・話し合いなどのできる部屋
 (7) コースや授業・演劇などの練習場 (8) 絵画・脚本などの製作室
 (9) その他の施設 () (X) 特にない・わからない

3.6. 一宮市教育委員会では、これまで青年を対象として次のような行事をひらいてきましたが、あなたは知っていましたか。次のなかで知っていたものに○印、知らなかったものに△印をつけてください。

- (1) 「青年の家」青年のつどい (2) 「公民館」青年のつどい (3) 青年祭
 (4) 青年文化教室 (5) 青年セミナー (6) 球技教室 (7) 青少年スクール
 (8) 青春のひろば (9) テレビ学校 (10) 勤労青年学校 (11) 公民館の運動会
 (12) スポーツ教室 (13) 市民文化教室・市民文化大学 (14) 実習教室
 (15) 社会通情教育学校 (16) レクリエーション教室 (17) 各種スポーツ大会
 (18) 美術展

3.7. 35.で○印をつけたものを何によって知りましたか。次のなかで主なものに○印をつけてください。(2つ以内)

- (1) 看板 (2) ポスター・ヒュ (3) 回観板 (4) 新聞案内
 (5) テレビ・ラジオ (6) 市の広報 (7) 雇用主 (8) 職場の友だち
 (9) 職場外の友だち (10) 学校の先生 (11) 家のもの (12) 近所のおとな
 (13) 青年の家や公民館などの職員
 (14) その他 () A B C D

3.8. 36.であげた教育委員会の主催行事のなかで、これまでに、あなたが参加したものがありますか。

- (1) あ る →その場合、36.の行事の番号に更に○印をつけて△印にしてください。
 (2) な い

3.9. あなたは今後このような行事に参加するお考えですか。

- (1) 参加したいと思う (2) 参加するつもりはない
 その場合、参加したいと思う行事は、どんな内容のものですか。次のなかであてはまる主なものに○印をつけてください。(3つ以内)
 1. 職業的技術の学習で、できれば各種の免許や資格がえられるもの
 2. 青年問題、婦人問題や人生問題についての学習
 3. 政治、経済、歴史など社会のしくみについての系統的な学習
 4. 文学的な教養をたかめる学習
 5. フィットネスやキャンプ、ハイキングなどを含めたスポーツ、レクリエーション活動
 6. 絵画、美術、音楽、丁寧、園芸、陶器、将棋など趣味活動の知識や技術
 7. 本草道、料理、和洋裁、インテリアなど日常的な家庭に関する知識や技術
 8. 自然科学的な教養をたかめる学習
 9. その他 ()

4.0. あなたは青少年団体やクラブに参加していますか。

- (1) 参加している (2) 参加していない

その青少年団体やクラブには、どのような期待をもって参加しましたか。次のなかで、あてはまるものに○印をつけてください。(3つ以内)

- (3つ以内)
 2つ以上の団体やクラブに参加しているものについて記入してください。
 1. 良い・ふん興味のなかで人生問題などを気軽にお話ししたい
 2. 効能がしたい
 3. 社会運営がしたい
 4. ハイキングや見学がしたい
 5. フボーグ、レクリエーションがしたい
 (コース、フィットネスなどを含む)
 6. 社会美化がしたい
 7. もっと高度な技術を習得したい
 8. 何となく友だちがほしい
 9. その他の期待で ()
 10. とくに期待はなかった
 X とくに理由はない

4.1. あなたは、この1年間に次の市立の施設を利用したことがありますか。各施設ごとに利用したもの番号に○印をつけてください。

また、○印をつけたそれぞれの施設にたいする希望があれば、下の表の希望事項から主な欄に2つ以内で番号を記入してください。

施設名	利 用 の 有無		希 望 事 項	
	第1希望	第2希望	S1	S2
(1) 市立公民館 (部屋公民館をのぞく)	()	()	()	()
(2) 青年の家	()	()	()	()
(3) 婦人の家	()	()	()	()
(4) 図書館	()	()	()	()
(5) 学校の校舎 (教室や記念館など)	()	()	()	()
(6) 小・中学校の運動場	()	()	()	()
(7) 小・中学校の運動場	()	()	()	()
(8) 施設・体育館	()	()	()	()
(9) 市営球場	()	()	()	()
(10) 九品地競技場	()	()	()	()
仙市営プール	(X)	()	()	()
仙市営アリーナ	(Y)	()	()	()

施設への希望事項									
1. 利用料金をやすぐする	8. 更衣室、シャワー室をつくる								
2. 利用手続きを簡単にする	9. 気軽に話しあいができるところをつく								
3. 個人の判断ができるようにする	10. 駐泊ができるようになる								
4. 専門の職員を配置する	11. 併設の室内体育施設をつくる								
5. 閉館時間を遅くする	12. 運動用具や学習器材の光景と貸出をする								
6. もっと施設の数をよやす	13. 駐車場をつくる								
7. 冷暖房、照明、換気、防音、机、椅子、	14. 施設の周辺に夜間照明をつくる								
喫茶コーナーなど内部設備を充実する									

調査員注意 [以下 14. をたずねた人にきく]

* 最後に収入についておたずねします。

4.2. あなたの毎月の収入(本給・歩合給・諸手当など)は税込でのどれにあたりますか。

(毎月一定でない人は平均してください)

- (1) 3万円未満 (2) 3万~4万円未満 (3) 4万~5万円未満 (4) 5万~6万円未満
 (5) 6万~7万円未満 (6) 7万~8万円未満 (7) 8万~10万円未満 (8) 10万円以上

4.3. あなたのこの1年間(昭和47年10月1日~48年9月30日)のボーナスや臨時収入は税込でのどれにあたりますか。

- (1) なし (2) 5万円未満 (3) 5万~10万円未満 (4) 10万~20万円未満
 (5) 20万~30万円未満 (6) 30万~40万円未満 (7) 40万~50万円未満
 (8) 50万円以上